

○横山(勝)委員 六十四條ノ適用ガアツトキ……
○林政府委員 六十四條ノ適用ト申スヨリハ、六十條ニ特
ニ出頭セザリシトキハ、書ケト云フコトガアリマスカラ、サ
ウ云フ結果ニナルダウト思ヒマス

○横山(勝)委員 第十一號ニ「不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限
シタルトキ」此規定ノ意味ハ一寸分り兼ネマスガ、例ヘバ本
條ノ十七號ニ、被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ
與ヲ與ヘサリシトキトアツテ、此辯護人ニ關スル場合ハ、辯
護權ノ制限デアツテ、此前ノ十一號ニ只今申上ダト不法ニ辯
護權ノ行使ヲ制限シタルトキト云フノト、重複スルヤウニ
思ハレマスガ、其所ノ御解釋ハ――

○林政府委員 十七號ノ場合モ辯護人ダケニ付テ申セバ、
廣イ意味ニ於テハサウ云フコトニナラウト思ヒマスガ、併
シ其以外ニ辯護權ノ行使ヲ制限スル場合ヲ想像シ得ルノ
デ、ソレヲ十一號ニ掲グマシタ

○横山(勝)委員 サウスルト、十七號ニ書イテアル以外ニ
モ、辯護權ヲ制限スル場合ガアルカラ、ソレヲ書イタト云フ
ノデスカ

○林政府委員 サウデス

○横山(勝)委員 此十一號ニ不法ニ辯護權ヲ制限シタルトキ
ト云フノハ、三百四十九條ノ第一項ニ當嵌ルノデスカ、ドウ
デスカ、要スルニ辯護權ノ行使ト云フ中ニハ、辯護人ノ辯護
權、ソレカラ被告人ノ辯護權ト云フモノモ包含シテ居ルノ
デスカ

○林政府委員 十一號ハ辯護人ノ辯護權ノ積リデアリマス
○横山(勝)委員 然ラバ三百四十九條ノ第一項及第二項ニ
於テ、被告人ノ辯護權ヲ制限シタル場合ニ入りマセヌカ
○林政府委員 先程御尋ノ三百四十九條ノ第一項ノ場合ニ
於テ、被告人ノ意見ヲ聽カナイ、此場合ニハ其證據ト云フモ
ノハ適法ニ之ヲ採用コトハ出來ナイ關係ニナリマスカラ、
ソレデ辯護權云々ト云フコトニハ全ク關係無イ、證據トシ
テ採ルニハ、適法ナル手續ニ依テ採ラレタモノデナケレ
バ、證據力ヲ認メル譯ニイカヌカラ、辯護人ノ問題トハ全然
違フト思ヒマス

○横山(勝)委員 サウスルト三百四十九條ニ於テ、證據調
査シテ、サウシテ取調ヲ終ル毎ニ意見ヲ問ハナカッタ場合、斯
ソレカラ利益證據ヲ提出スベキ機會ヲ與ヘナカッタ場合、斯
ウ云フ場合ハ上告ノ理由ニナリマスカ
○林政府委員 其證據ヲ判決ニ採用スレバ、判決ノ内容自
體ガ違法デアリマスカラ、無論上告ノ理由ニナリマス
○横山(勝)委員 サウスルト第二項ノ證據ヲ提出スルコト
ガ出来ルト云フコトヲ、證據ガマダ無イカラ、提出スルコト
ガ出来ルト云フコトヲ言ハナカッタ自體ガ違法ニナルノデ

スカ

○林政府委員 三百四十九條ノ手續ハ、證據ニ關スル大切
ナ手續デアリマスカラ、手續ヲ履マナケレバ、證據調べハ適
法デナイ

○横山(勝)委員 證據調ハ違法デナクテモ、第二項ノ場合
ノ如キハ、證據ガ無イノダカラ、證據ヲ採ル譯モ無イ、隨テ
今ノ御説明ノ趣旨ニ依レバ、證據ヲ提出スル機會ヲ與ヘナ
カタ其手續ハ違法デアル、此故ニ上告ノ理由ニナル、斯ウ
云フ風ニ解シテ宜シイデスカ

○林政府委員 證據ハ法律ノ規定シタル手續ニ依テ調ベマ
シテ、調ベタ毎ニ意見ヲ聽キ、サウシテ又第二項ノ如ク利益
トナルベキ證據ヲ提出スルコトガ出來ルト云フコトヲ舍ゲ
ルコトガ、法律上證據調ニ付テノ要件ニナッテ居リマス、其
手續ヲ履践セズシテ爲シタル證據ヲ判決ニ採レバ、判決自
體方違法ニナル、ソレ故ニ上告が出來ル、斯ウ云フ意味デス

○横山(勝)委員 矢張十一號ノ辯護權ニ付テ、三百五十一
條ノ第二項ニ於テ、被告人辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ
得、詰リ證據調ベタ終ラテ、檢事ノ論告ガアツテ、次ニ被告人
又ハ辯護人ハ意見ノ陳述ガ出來ル、是ガ所謂今日普通ニ行
テ居ル最終ノ辯論ダラウト思フ、此陳述スルコトヲ得トナ
テ居リマス、意見ヲ制限スレバ、無論辯護權ノ制限ト云フコ
トニナリマス、而シテ之ヲ調書ニ明記シテナイ、辯明シタ
モセヌトモ明記シテナイ場合ハドウナリマス、要スルニ辯
論ヲ聽カナカツタストレバ、無論辯護權ノ制限ト云フコトニ
ナルト思フ、ソレガ調書ニ明記シテナカツタ場合ハドウナリ
マス

○横山(勝)委員 本法ニ含メテナイトスレバ、何處ニ入ッテ
居リマスカ

○林政府委員 本法ニサウ云フ場合ハ規定致シマセヌ

○横山(勝)委員 ドウモ今ノ御話ニ據ルト、三百五十一條
六號ニ規定シテアル、法律ニ定メタル場合ニ檢事ノ意見ヲ
聽カザルトキト云フノヲ略シタル場合ニ檢事ノ意見ヲ
聽カザルトキト云フノヲ略シタル場合ニ於テ居ラヌノデアリ
マス

○横山(勝)委員 此十二號ハ公判ニ於テロ頭審理ノ原則ヲ採
用テ、檢事が先づ事件ニ付テノ陳述ヲスルト云フコトヲ必要
トシマス、其結果十二號ト云フモノガ現ハレテ來マシタ、隨
テ其場合ノミガ、之ニ當リマシテ、其他ノ場合ハ之ニ入ラヌ
ノデアリマス

○横山(勝)委員 サウ致シマスレバ、此三百五十一條ノ場
合ハ上告ノ理由ニナリマスカ、ナリマセヌカ

○林政府委員 若シサウ云フコトガアリトスレバ、實際ニ
於テハ無イコトデアラウト思ヒマスガ、本法ノ解釋トシテ、
上告ノ理由トハナリマセヌ

○横山(勝)委員 第十三號ノ適用ニ付テ承リタイ「法律ニ
依リ公判ニ於テ取調ヲヘキ證據ノ取調ヲ爲サリシトキ」

サウ云フノハ三百四十二條ニ三百四十三條、三百四十四條、
サウ云フヤウナ場合ガ即チ法律ニ依リト云フ場合ニ當ルヤ
ウニ思ヒマスガ、其通り了解シテ宜イノデアリマスカ

○林政府委員 法律ニ證據調ヲ爲スベシト云フ規定ガ本法
ニハ段アリマス、ソレニ反シテ證據調ヲシナカツタ場合
ハ、總テ當リマス

云フノデアリマセウト思フノデスガ、如何デアリマスカ

○林政府委員 十二號ニハ當ラヌト思ヒマス
テ居ルノデアリマス

○横山(勝)委員 三百五十一條ハ當リマセヌカ

○林政府委員 十二號ニハ當ラヌト思ヒマス
テ居ルノデアリマス

○横山(勝)委員 外ニ此規定ニ觸レル條文ハナインデス
カ、被告事件ノ陳述ヲ聽カズシテト云フノニ――

○林政府委員 無イト思ヒマス

○横山(勝)委員 此十二號ノ意味ハ、現行法ノ二百六十九
條ノ第六號ニアリマス、法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ
意見ヲ聽カザル時ト云フノト同業デアルト解釋シテ宜シイ

ノデアリマスカ

○横山(勝)委員 此十二號ノ意味ハ、現行法ノ二百六十九
條ノ第六號ニアリマス、法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ
意見ヲ聽カザルトキト云フノヲ略シタル場合ニ檢事ノ意見ヲ
聽カザルトキト云フノヲ略シタル場合ニ於テ居ラヌノデアリ
マス

○横山(勝)委員 本法ニ含メテナイトスレバ、何處ニ入ッテ
居リマスカ

○林政府委員 本法ニサウ云フ場合ハ規定致シマセヌ

○横山(勝)委員 ドウモ今ノ御話ニ據ルト、三百五十一條
六號ニ規定シテアル、法律ニ定メタル場合ニ檢事ノ意見ヲ
聽カザルトキト云フノヲ略シタル場合ニ於テ居ラヌノデアリ
マス

○横山(勝)委員 此十二號ハ公判ニ於テロ頭審理ノ原則ヲ採
用テ、檢事が先づ事件ニ付テノ陳述ヲスルト云フコトヲ必要
トシマス、其結果十二號ト云フモノガ現ハレテ來マシタ、隨
テ其場合ノミガ、之ニ當リマシテ、其他ノ場合ハ之ニ入ラヌ
ノデアリマス

○横山(勝)委員 サウ致シマスレバ、此三百五十一條ノ場
合ハ上告ノ理由ニナリマスカ、ナリマセヌカ

○林政府委員 若シサウ云フコトガアリトスレバ、實際ニ
於テハ無イコトデアラウト思ヒマスガ、本法ノ解釋トシテ、
上告ノ理由トハナリマセヌ

○横山(勝)委員 第十三號ノ適用ニ付テ承リタイ「法律ニ
依リ公判ニ於テ取調ヲヘキ證據ノ取調ヲ爲サリシトキ」

サウ云フヤウナ場合ガ即チ法律ニ依リト云フ場合ニ當ルヤ
ウニ思ヒマスガ、其通り了解シテ宜イノデアリマスカ

○林政府委員 法律ニ證據調ヲ爲スベシト云フ規定ガ本法
ニハ段アリマス、ソレニ反シテ證據調ヲシナカツタ場合
ハ、總テ當リマス

○横山(勝)委員 第十六號ニ於テ「法律ニ依リ公判手續ヲ
考ヘマス

○横山(勝)委員 此十二號ニ「檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ
考ヘマスシテ審判ヲ爲シタルトキ」ト云フノハ、二百四十七
條ノ第一項、ソレカラ三百五十一條ノ場合、斯ウ云フ場合ヲ

停止シ又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ
更新セサリシトキ」は公判停止ノ場合ハ三百五十四條ニ
規定シテアリマス、ソレカラ更新スペキ場合ハ、三百五十
五條、三百五十六條等ニアルヤウニ思ハレマス、斯ウ云フ
ト云フ事柄カラ違法ニナリマスカ、又其他ノ理由カラ違法
ニナリマスカ、ソレヲ承リタイ

○林政府委員 公判調書ニ、例ヘバ更新シタト云フコトガ
書イテナケレバ、無論更新シナイコトニ解釋サレルダラウ
ト思ヒマス、本法ニ依テ上告ノ理由ニナルト思ヒマス
○横山(勝)委員 無論ナカッタモノト云フ 意味ニ解釋セラ
ル、ノハ、矢張六十四條ノ規定カラデアリマスカ

○林政府委員 六十四條ガ根據ニナリマス

○横山(勝)委員 其次ノ第十七號ノ「被告人又ハ辯護人ニ
付云々ト云フ規定ガアリマスガ、此審判ノ請求ト云フ意
味ハ「起訴ノ不法ト云フコトニナルノデアルヤウニ思ハレ
マスガ、サウ云フ工合ニ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

○林政府委員 十八號ノ前段ハ、起訴ヲ受ケタ事件ガアル
ニ付云々ト云フ規定ガアリマスガ、此審判ノ請求ト云フ意
味ハ「起訴ノ不法ト云フコトニナルノデアルヤウニ思ハレ
マスガ、サウ云フ工合ニ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

○林政府委員 御尋ノ通リデアリマス

○横山(勝)委員 第十八號ニ、審判ノ請求ヲ受ケタル事件
ニ付云々ト云フ規定ガアリマスガ、此審判ノ請求ト云フ意
味ハ「起訴ノ不法ト云フコトニナルノデアルヤウニ思ハレ
マスガ、サウ云フ工合ニ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

○横山(勝)委員 現行法ニハサウ云フ場合ニハ、結局上告
シテサウ云フコトニナルト、斯ウ解釋シテ宜シウゴザイマス
カ

○横山(勝)委員 サウスルト、サウ云フ場合ノ救濟方法ハ
ドウナリマスカ、検事が上告レバ宜シイガ……

○林政府委員 其場合ハ本案ニ於テハ、補充判決ト云フモ
ノヲ認メナイカラ、結局判決ヲ致サヌ儘デ、權利拘束ガ消滅
シテシマウ

○横山(勝)委員 致サヌ儘デ權利拘束ガ消滅スルト云フノ
ハ、何處カラ解釋シマスカ

○林政府委員 一般ノ刑事訴訟ノ法理カラ、サウ云フコト
ニナルト思ヒマス

○横山(勝)委員 云フ場合ニ何トカ解決ノ方法ヲ與ヘルコ
トガ必要ト思ヒマスガ、ソレヲ顧ミナイ理由ハドウデアリ
マスカ

○林政府委員 己ムヲ得ナイカラデアルト考ヘマス

○鵜澤委員長 第十八號ノ「審判ノ請求ヲ受ケタル事件ト
云フノハ、起訴ヲ受ケタル事ダケデスカ、外ニ尙ホ裁判ヲ求
メラレモノガ含ムノデアリマスカ

○林政府委員 是ハ起訴ヲ受ケタ事件ダケノ積リデアリマ
ス

○鵜澤委員長 文字ハ之ガ適當デアリマスカ

○林政府委員 色々異論ガアツクノデアリマスガ、此文字デ
其意味ガ現ハレルダラウト云フノデアリマス

○横山(勝)委員 十九號ノ「判決ニ理由ヲ附セズ」ト云フ場
合ヲ承リタク、譬へテ見レバ、一ツノ事案ニ付テ理由ヲ掲ゲテ
居ル、其掲ゲテ居ル理由ガ、法律ヲ適用スルニ不十分ナル場
合、即チ犯罪ノ構成條件ノ一つノ認定ノ中ニ缺ケテ居ルト云
フ場合ハ、全然理由ヲ附セナイ場合トモ申サレマセヌガ、其
要ナル理由デアリマス、二十號ノ方ハ三百六十條ノ第二
項ニアル場合デアリマシテ、即チ抗辯ガ當事者カラ提出サ
レル、裁判所ガ之ヲ排斥シタ場合ニ判斷ヲ示スコトニナリ
マス、コレハ判決ノ主文ヲ直接ニ維持スル理由トハ、自カラ
趣フ異ニシマス、ソレデ別ニ書キ分ケマシタ

○横山(勝)委員 書キ分クラレタ趣旨ハ分リマシタガ、二
十號ガナクテモ、私ハ解釋上十九號ニ包含シハセヌカト思
釋シテ宜シウゴザイマスカ

○林政府委員 御尋ノ通リデアリマス

ト云フダケデアリマス

○横山(勝)委員 無論上告デスカラ、権利拘束ノアル中ニセナケレバ、ナラムト云フコトハ了解致シテ居ルノデアリマスガ、確定後ニ斯ウ云フコトガアッタラドウ御扱ニナルカト云フノデス

○山岡政府委員 大赦ノアッタ時ニハ問題ニナリマセヌ、確定致シマシテモ、大赦ノ效ハソコニ及ビマス、刑ノ廢止變更ノトキデアリマス、裁判スルトキニ其事ガナクテ、裁判後ニテ刑ノ廢止變更セラレテモ、問題ハ大體出テ來ナイ譯デアル

○横山(勝)委員 宜シウゴザイマス

○鶴澤委員長 第四百一十八條——第四百十九條——第四百二十條 第四百二十一條——第四百二十二條——第四百二十三條——第四百二十四條——第四百二十五條

○横山(勝)委員 是ハ上告申立人ハ、公判期日ノ十五日前ニ上告越意書ヲ出セト云フノデ、是ハ現行法ニ於テモ改正ヲ加ヘラレテ、此趣旨ヲ承繼セラレテ出來テ居ルノデアリマスガ、是ハ非常ニ被告人ノ権利ニ影響ガアルノデ、此十五日前ニ出セト云フコトヲ、裁判所ハ現行法ニ於テハ御承知ノ通り通知致シテ居リマス、所ガ本人ノ或者ハ實ハ文字ノ讀メス者モアル、ソコデ公判期日ト云フモノハ能ク了解スルノデアリマスケレドモ、其十五日前ニ趣意書ヲ出スト云フ手續ガ常ニ遅レル、甚シキニ至テハ、第一回ノ公判ヲ延期スレバ、矢張此期間モ延期ニナルノダト斯ウ考ヘテ居ル者ガアル、ソレデ地方カラ郵便ナドデ、在京ノ辯護士ニ上告ノ辯護ヲ委託シテ參リマス時分ニ期限方切迫シテ居ルコトモ知ラナイ、公判期日迄ニ委託スレバ宜イモノダト云フコトヲ考ヘテ居ル結果、此期間ヲ喪失スルコトガ屢々アル、是ハ年ニ何百件アルカ知ラムト私ハ思フ、此提出期間ノ經過後ニ委託ノ事ヲ照會セラレ、斯ウ云フ譯デアルカラ、モウ辯護ノ餘地ハナイト言ツテ返却スルモノガ、私一人デモ可ナリアリマス、餘程澤山アル、ソコデ吾々ノ側ニ於テハ、屢々削除ノ意見ヲ當局ニモ提出シタコトガアルト考ヘテ居リマス、全ク必要ノ無イ規定デアル、唯裁判所ノ判事ガ十五日前ニ趣意書ガ出テ居レバ、ソレヲ一瞥スル期間ガアル、檢事ガソレニ對スル答辯ノ準備ガ出來ルト云フ以外ニ、何ニモ必

要ガナイ、殊ニ公判期日ヲ正當ナ理由ガアッテ、延期シタ場合ノ如キハ、此期間モ矢張延期シテ差支ナイコトデアル、ソレ特ニ十五日前ト云フ制限ヲ置イタ爲ニ、第一審判決ニ對シテ不服ノアル裁判ノ事ニ馳レナイ無知ナル人民ガ、數多ク上告ノ権利ヲ喪失致シテ居ルト云フ弊害ガ生ズル、此規定ハ官吏ノ側ノ便利ヲ計ルト云フ以外ニ、ドウモ維持スベキ根據ハナイ、苟モ人民ノ便利ヲ計リ、人權ヲ擁護スル不

服ヲ聞ク途ヲ設ケル、被告ノ便利ノ爲ニ上告ノ途ヲ設ケル

ト云フ趣旨ヲ貫徹スルナラバ、斯ノ如キ非文明ナ残酷ナ規定ハヤメタ方ガ宜カラウト思フ、若シドウシテモヤメル事ガ出來ヌト云フナラバ、公判期日ヲ延期シタナラバ、矢張其十五日前デ宜シイ、即チ茲ニ規定シテアル「遲クトモ最初ニ定メタル」ト云フ文字ヲ削ッテモ宜シト思フ、何カ特ニ今ノ申上ゲタ裁判官並検事ノ便利ヲ圖ル以外ニ、斯ウ云フ規定ヲ必要トスル理由ガアレバ承リタイ

○山岡政府委員 前段ニ御述ベニナック御趣旨ニハ、吾々モ御同意デアリマス、成ベク之ヲ司法行政ノ上ニ於テ、十分ナル手續ヲ致シマシテ、無知ナル上告人ヲシテ、上告権ノ喪失ノ結果ヲ來サシメナイヤウニシナクテハナラヌケレドモ、今日ノヤリ方ヲ以テ當局ガ是ナリト致ス次第デハアリマセヌ、之ヲ運用スルニ付キマシテハ、十分ニ被告人ノ権利ヲ擁護スル方法ヲ講ジナクテハナルマイト思フ、サウ致シマス

ト、此十五日ノ規定ヲ置キマシテモ、害ノ生ジナイヤウニナリ得ルト思ヒマス、ソレカラ尙ホ如何ナル趣旨ニ於テ斯ノ如ク爲シタカト云フ點デゴザイマスルガ、是ハ上告審ニ於キマシテハ、單純ナル職權主義ト云フモノガ變ッテ參リマシテ、當事者ノ主張シタル範圍内ニ於テノミ審査ヲ爲スモノデアリマシテ、當事者ガ主張シナケレバ、如何ニ不服ガアリマシテモ審査シナイト云フノガ上告ノ原則デアリマス——例外ハ勿論アリマスガ——ソレデアリマスカラ、法廷ヲ開ク前ニ、十分ナル調査ヲ裁判長ガシテソレカラ法廷ヲ開イテ陳述ヲ聽カナケレバ、陳述ノ釋明ヲ求メルコトモドウスルコトモ出来ヌノデアリマス、ソレデアリマスカラ、如何ナル點ガ不服デアルカト云フコトガ分ニテ居ラヌ以上ハ、法廷ヲ開イテモ無意味デアリマス、サウ云フ趣旨デ此上告越意書ハ上告審ニ於テハ缺クベカラザル書面デアリマス、ソレデアリマスカラ調査期間ヲ十五日要スル——是ハ十五日要スルカ、或ハ十日デ宜シイカ、ソレハ程度ハアリマセウケレドモ、何レニ致シマシテモ、公判前ニ明ニナッテ居ルコトヲ必要トスルコトハ、上告審ノ性質カラ、斯ノ如クシナケレバナラヌト信ジテ居ル次第デアリマス

○横山(勝)委員 是ハ民事訴訟法ノ規定カラ申シマシテモ、權衡ガ取レナイト思ヒマス、民事訴訟法ハ御承知ノ通リニシテ、上告越意書ノ準備ガ出來ルト云フ以外ニ、何ニモ必

モ差支ナイノデアリマス、ソレモ民事訴訟法ハ放擲シテ居ル、サウシテ大審院デ辯論ヲ爲ス者ハ辯護士デアリマスケレドモ、上告越意書ハ本人ガ出シテモ宜カラウト思ヒマス、サウスレバ法律知識ニ暗イ裁判ノ手續ニ暗イ者ニ對シ

テ、斯ウ云フ制限ヲ設ケルコトハ、民事訴訟法ノ運用トノ間ニ權衡ヲ失スルト云フコトガ、私ハ此條文ニ反対ヲスル他ノ理由デアリマス、ソレカラ又今度ハ上告ノ申立ハ成程趣意書ニ制限ヲサレル、越意書ニ依テ判断ヲスル事ハ、是ハ上告ノ精神デアリマスケレドモ、併ナカラ本法ニ於テハ上告裁判所ガ職權デ調査ヲスル場合モ規定シテ居ル、又特殊ノ場合ニハ事實ノ審判モ出來ルト云フ事ヲ規定シテ居ル、

サウ云フ工合ニ上告制度ガ變更サレル以上ハ、之ハ改善カ、改悪カハ暫ク別ノ問題トシテ、變更サレル以上ハ、單ニ五日前ノ趣意書ノ提出期間ノミ固執スルコトハアル「イト思ヒマス、其點ニ付テ再應意見ヲ質シテ置キマス」

○山岡政府委員 民事ノ上告ニ於テハ、此言葉ハ如何デア

ルカ、豫備的ニ調べテ致シマシテ、ソコデ上告理由ガ無ケレバ、ソレ限リ審理ニ入ラヌノデアリマス、刑事ニ於テハサウ云フ譯ニハ參リマセヌ、上告ガアレバ、必ズ法廷ヲ開イテ調べヲシナケレバナラヌ、ソレデアリマスカラシテ、其前ニ如何ナル點ヲ上告ノ理由トセルヤフ明カリシナケレバナラヌ、斯ウ云フ違ヒテ此處ニツアリマス、其外ニナリマス

ト云フ、前ニ述べマシタ理由デ、上告越意書ト云フモノガ基本デアリマスカラシテ、無ケレバナラヌコトデアリマス、ソレカラ尙第二點ノ御質問テアリマス、職權ヲ以テ調べル場合モアリマスルシ事實ノ調べヲスル場合モアリマス、併シソレハ此事實調査ヲ爲スヤ否ヤト云フコトハ矢張上告越意書ヲ基本トシテ判断ヲシテ然ル後ニ行クコトデアリマス、先づ第一ニ上告越意書ニ依テ判断ヲシテ其結果、此事實審理ヲ爲スト云フ決定ヲスル前マデノ手續ハ、越意書ガ肝要デアリマス決定ヲスル前マデノ手續ハ、越意書ガ肝要デアリマス、此改正案ニ於テ、廣ク職權及事實審理ハアリマスケレドモ、矢張是ハ必要デアルト考ヘテ居ル次第デアリマス

○横山(勝)委員 理窟ハモウ一切止シマシテ、私ハ此公判期日前ニ、十五日ト期限ヲ切ッテ上告越意書ヲ提出セシムル制度ハ、全ク不當デアルト思ヒマスルカラシテ、何處迄モ反對デアルト云フコトダケ申シテ置キマス

○鶴澤委員長 一寸政府委員ニ御尋ね致シ「スガ、四百一十五條、此規定ノコトヲ三百七十一條ニ於ケル場合ノ如ク、見レバ答辯書ノ如キハ、十四日間ニ之ヲ差出セト云フケレドモ、此規定ハ厲行サレテ居ラヌ、ソレハマア處分権主義ノ訴訟法デアリマスカラ、自然解釋上サウナルノデアリマス、此改正案ニ於テ、廣ク職權及事實審理ハアリマスケレドモ、矢張是ハ必要デアルト考ヘテ居ル次第デアリマス

○鶴澤委員長 一寸政府委員ニ御尋ね致シ「スガ、四百一十五條、此規定ノコトヲ三百七十一條ニ於ケル場合ノ如ク、

ナラスト云フコトヲ告知スベシト云フヤウナ、其規定ヲ設クルコトハドウズカ

○山岡政府委員 此被告人ニ對シテ、本案ニ於テハ、判決ヲ二條ニアリマス、其等ノ事ヲ置キマスルニ、別ニ差支ベキコトハナカラウト思ヒマス、尙ホ裏キニ申シマシタヤウニ、是非是ハ手續上ニ於テ、被告人ヲシテ十分了解セシメ得ルダケニハシナケレバナラスト存ジテ居リマス

○横山(勝)委員 此十五日ト云フコトノ計算方法ハ、現行法ト違ヒガナイノデアリマスルカ

○山岡政府委員 其通りデアリマス

○鶴澤委員長 第四百一十六條

○原夫次郎君 一寸此場合ニ「ツ伺ッテ置キタイノデスガ、ソレハ先程横山君カラ尋ねラレタ四百十四條、ソレカラ似寄ッタヤウナ四百十六條、此二條ニ付テアリマスルガ、一體我裁判所構成法ノ立方カラ申スト云フト、大審院ト云フモノハ、此法案ニモ大體認メテ居ルガ如ク、主トシテ事實裁判所ノ判断ニ對シテ、法律違背ノアル場合ニ於テ、其法律違背ヲ正シ、且ツ全國ノ裁判所ノ則ルベキ判例ヲ示スト云フノガ、大體ニ於テ此大審院ヲ設ケルト云フコトニ各國共殆

ン例ヲナシテ居ルノデアリマスルガ、所デ此四百十四條ノ量定方甚シク不當ナリト思料スベキ顯著ナル事由ノアルトキニハ、是モ上告ノ理由ト爲スコトガ出來ル、是グケノ規定ヲ設ケルト云フト、被告人ノ側カラ言ヘバ、裁判所ノ審級ハ何審アッテモ足ラナイ、三審デモ四審デモ五審デモ、成ナル事實ニ付テ調査シテ貴ヒタイト云フコトハ、被告人側デモ辯護人ニシテモ、希望スル所デアリマスガ、併ナガラ是

ハ屋上屋ヲ架スルヤウナモノデ、際限ハナイ、殊ニ裁判官ハベク事實ニ付テ調査シテ貴ヒタイト云フコトハ、被告人側ス、併ナガラ普通ノ法制ニ於テハ、事實裁判所ハ二審限り、法律違背ハ上告審ニ持テ行ク、ソレデ觀念セヨ、斯ウ云フヤウニ思ハレル、是アルガ故ニ、上告審ニ於テモ事實ノ取調人間デアルカラ、何處マデ往テモ判断方間違フカ知レマセス、併ナガラ普通ノ法制ニ於テハ、事實裁判所ハ二審限り、

人民思ヒノ規定デアルヤウニ思フケレドモ、併シ一體訴訟法ノ全體カラシテ、斯ウ云フ例外的規定ヲ設クルニ至リマシタノハ、從來ノ裁判所ノ審級ノ觀念ト、大脅違夕觀念ノ實ニ關スル事モ尙ホ上告審ニ取調ガ出來ルト云フノハ、是ハ大脅被告人並ニ辯護人ノ側カラ言フト、餘程進歩シタル

ヤウニ思ハレル、是アルガ故ニ、上告審ニ於テモ事實ノ取調ヲ爲ス上ニ於テ、餘程進歩來ス處ガアルト思ヒマスガ、之ニハ法律取調委員會其他ニ於テ、隨分議論ノアッタ點ト思ヒ

マズガ、一體此例外規定ヲ設ケタル本旨ハ、那邊ニ在ルカト云フコトニ付テ、参考迄ニ聽イテ置キタイ

○山岡政府委員 御尤ノ御質問デ、極メテ重大ナル關係ヲ有スル事柄デアリマスカラ、十分明確ニシテ置ク必要ガアラウカト思ヒマス、上告審ハ、矢張第一審ニ確定致シタル事實ヲ、基本トシテ審理ヲシナケレバナラメノデアル、斯ウ云フ事ハ、本案ニ於テモ原則トシテ居ル譯デアリマス、ソコデ此四百十四條ニ於テハ、控訴審ノ確定シタル事實ガ、刑ト對比シテ見テ甚シク不當デアル、ソレカラ又控訴審ニ確定シタル事實ガ、極ク概略的ニ見テ、重大ナル事實ノ誤認ガアル、斯ウ云フ場合デアッテ、即チ控訴審ニ決メタ事實外ニ亘

テマデ上告審判ヲスルコトハナイ、ダカラシテ矢張其趣旨ニ於テ、控訴ノ覆審ハ甚シク違フノデアリマシテ、控訴ノ

確定シタル事實ヲ基本ニ置キマシテ、量刑及事實ノ認定ニ關シテ顯著ナル錯誤アリヤ否ヤト云フコトヲ見ルノデアリ

マス、ソコデ是ハ主觀的ニ上告ヲ爲スモノガ、不當デアルト考へ、事實ニ誤認ガアルト考ヘルノデハ矢張イカヌノデアリマシテ、客觀的ニ顯著ナル事由ガアルト云フ時ニ限テ之ヲ爲スノデアリマス、ソレカラ更ニ今日ノ訴訟法ノ立方デアリマスガ、裁判ノ確定力ト云フ意味、即チ事實ノ確定ハ控訴審ニアルノデアリマスガ、全體ノ確定ハ上告審ニアリマスガ、裁判ノ確定力ニヒトイ力ヲ與ヘルト云フ主義ト、裁判ノ實質ヲ確定ニ影響スルコトハナラヌ、即チ誤認ト云フモノガアッテハナラヌト云フ主義トノ傾向ガアリマスルガ、其廣キ實質ノ方ヲ改善スルト云フ立場ニアル、訴訟法案ハ再審ノ範囲ヲ非常ハ擴大スルノデアリマス、又確定力ヲ強ク見マス、ソコニ再審ニ於キマシテ即チ上告審ヲ經タモノノデアリスルモノハ、再審ノ範囲ヲ限局スルノデアリマス、ソコガ二ツノ岐れ目ニナッテ來ルノデアリマシテ、本案ニ於テハ形式デアル確定力ト云フモノヲ、ソレ程強ク見ナイノデアリス、ソコニ再審ニ於キマシテ即チ上告審ヲ經タモノノデアリマシテモ、再審ニナッテ澤山ナル原因ヲ列記シテ、確定力ヲ破壊スルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、控訴審ニ於ケル事實方確定シテ見タ所ガソレヲ絶對ニ動カスコトハ出來ナイト云フコトハ、其趣旨カラ言ッテモ即チ適當デナインデアリマス、デ先づ原則カラ申シマスレバ、左様ナル建テ前ニ本案ハナッテ居リマス、更ニ今一つ申上ゲテ置キタイノハ、是ハ法律ニ携ハブ者ノ常ニ知ル所デアリマス、私共ニニ於テモ、上訴審ニ於テ觀察シテ居ル場合ニ、判決ヲ一ツ見タグケデモ、是ハドウモ何カ適當ナラザル點ガアルト云フ感ジガアル、況ヤ記錄ヲ一讀致シマスレバ、是ハイカヌト云フコトヲ直覺スルノデアリマス、直覺シテ事實ノ誤認ガアルト云フコトヲ考ヘテモ、尚且ツ上告審デアルガ故ニ、何トモ爲シ難イト云フガ如キハ、即チ徒ニ確定力ニ重キヲ置ク

形式主義デアリマシテ、甚ダ適當デナインデアリマス、ソレデアリマスカラ、茲ニ控訴審ニ於テ確定シタル事實ニ付テモ、尙ホ或ル程度マデ取調ベル、斯様ナ次第デアリマス

○鶴澤委員長 第四百一十七條 第四百一十八條 第四百二十九條 第四百三十條 第四百三十一條 第四百三十二條 第四百三十三條 第四百三十四條 第四百三十五條 第四百三十六條 第四百三十七條 第四百三十八條 第四百三十九條 第四百四十條 第四百四十一條 第四百四十二條

○横山(勝)委員 他ノ條項ニモ疑ノアル點ハアリマスガ、進行上他ノ機會ニ於テ意見トシテ述ベル事ニシテ、多クノ質問ハ致シマセヌガ、四百四十二條ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスベキ法令ノ違反ラ理由トシテ、原判決ヲ破毀スベキモノト認ムルトキハ、事實ノ審理ヲスル、斯ウ云フノデアリマスデ事實ノ確定ニ影響スベキト云フ事ニ付テ承テ置キ

タイノハ、四百十二條ノ關係デアリマス、四百十二條ノ第一乃至第二十一ノ上告ノ理由トナリベキ場合デス、是ハ悉ク全部斯ウ云フ違例ノ場合ガアッタキニハ、事實ノ確定ニ影響及ボスベキモノト解釋スルコトガ出來マスカ、ドウカソレヲ承リタイ

○林政府委員 確定ニ影響ヲ及ボスベキモノト思ヒマス

○横山(勝)委員 四百五十條トノ關係ヲ承リタイノデアリマスガ、四百四十二條ハ單ニ事實ノ審理ヲ爲スベキヤ否ヤ

ヲ決定スル事ニナッテ四百五十條ト四百五十一條ト四百五十二條トノ場合ヲ除クノ外、被告事件ハ判決ヲ直チニ附ケルコトガ出來ルトナッテ居リマスガ、四百五十一條第四百五十二條ノ場合ニ相當セザルモノハ、破毀移送若クハ原裁判所ニ下戻スト云フコトニナルト考ヘマスカ、サウスルト此四百五十條ノ場合ハ、四百四十二條ノ規定ニ依テ事實ノ審理ヲシタル場合ニ於テカ、若クハ事實ノ審理ヲセザル場合デモ、今申上ゲタヤウナ場合ガ生ズルカ、私ハ能ク此關係ガ分リマセヌカラ

○林政府委員 四百五十一條及四百五十二条以外ノ場合ニ於テ、總テ大審院ニ於テ自判ヲスル、斯ウ云フ關係ニナリマス

○鶴澤委員長 第四百四十三條 第四百四十四條 第四百四五十五條 第四百四十六條 第四百四十七條 第四百四十八條 第四百四十九條 第四百五十條 第四百五十一條 第四百五十二條 第四百五十三條

○林政府委員 總テ包含致シマス
○鶴澤委員長 第四百四十三條 第四百四十四條 第四百四五十五條 第四百四十六條 第四百四十七條 第四百四十八條 第四百四十九條 第四百五十條 第四百五十一條 第四百五十二條 第四百五十三條
○横山(勝)委員 其場合ハ四百四十二条ニ廣ク包含シマス
カ
○鶴澤委員長 第四百四十三條 第四百四十四條 第四百四五十五條 第四百四十六條 第四百四十七條 第四百四十八條 第四百四十九條 第四百五十條 第四百五十一條 第四百五十二條 第四百五十三條
○横山(勝)委員 四百五十三条ニ付テ一寸承リタイ、是ハ

被告ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀シテ、サウシテ其破毀スルコトガ共同被告人ニ利益ヲ及ボス場合デアリマス、ソコデ數人ノ被告人ガ悉ク上告ヲ致シテ居ルト云フ場合ハ、無論何等ノ疑ナク之ヲ含ミマスガ、一つハ上告ヲ爲シ、一つハ上告ヲセザル場合ニ、上告ヲ爲シタル者トセザル者トノ間ニ、如何ナル效力ヲ及ボスカト云フコトノ、此四百五十三條ノ關係ニ付テ承リタイ

○林政府委員 上告爲サザル被告人ニ付テハ、判決ガ既ニ確定致スノデアリマスカラ、何等訴訟ノ手續ノ上デハ左右致シマセス

○横山(勝)委員 其場合ハタシカ現行法ニハ丁度規定ガアタノデアリマス、其場合ヲ本條ニ於テ豫想シナカツタノハドウ云フ理由デアリマスカ

○林政府委員 上告ハ未確定ノ判決ヲサス方法デアリマシテ、確定ヲシタモノヲ上告ノ手續ニ於テ左右スルト云フコハ、上告審ノ手續

○横山(勝)委員 理論ハ洵ニ明白デアリマス、併ナガラ法律審テ破毀サレテ、現ニ違法デアルト云フ事ガ既ニ分ッテ居ル、其場合ニ何トカ、此救濟方法ヲ與ヘルト云フコトガ、立法上正當デハナイノデアリマスカ、ソレハ必要ハアリマセヌカ

○林政府委員 確定判決ニ對シテハ、御承知ノ通り非常上告ニハ再審ト云フ救濟方法ガアリマス、本案ニ於テ非常上告ノ範圍ヲ現行法ヨリ廣メマシタ、ソレニ依テ救濟ノ途ハ十分アルト考ヘマス

○横山(勝)委員 宜シウゴザイマス

○鵜澤委員長 一寸此手續ヲ伺ヒマスガ、今マデノ上告理由ニ、檢事ノ趣意書ヲ出シテ、他ノ被告人ノ出シマシタ趣意ヲ採用スル、其場合ニ於テ他ノ方ガマダ出テ居ラスト、運用ノ効力ナシト云フト皮肉ナ判決ノヤウニ思ヒマスガ、サウ云フ場合ハ今度ハ四百五十三條デ救濟サレル、ソレガ其上告ノ判決ニ依テ効力ヲ生ズルコトニナリマスカ、

○林政府委員 結局サウ云フ事ニナラウト思ヒマス、結果ハ……

○鵜澤委員長 第四百五十四條——第四百五十五條——第四百五十六條——第四百五十七條——後ハアリマスカ

○横山(勝)委員 此場合ニ於テ御意見ヲ質シテ置キタイト思フノハ、上告ノ制度ノ非常ナル變革ニ對シテ、司法當局ノ意見ヲ伺テ置キタインハ、此上告制度ノ爲ニ、大審院ハ非常ニ事件ハ増加スルト云フ結果ヲ生ズル、此點ニ付テ非公式ニ承ハル所ニ依レバ、大審院其モノガ經費ガ増スト云フコトハ當然伴テ來ルト思ヒマス、人ノ必要モアル、サウセンナラヌダラウト思ヒマスガ、其點ニ對スル御考ヲ承ッテ置

キタイ、從ラテ其次ニ承リタイノハ此上告審ノ事實審理ノ途ヲ開クト云フ事ハ之ヲ或ル方面カラ觀察スレバ進歩デアリマス、併ナガラ裁判ノ審理ノ方面カラ言ヒマスルト、強チ進歩ナルモノト認メル譯ニイカヌ事情ガアリマス、例ヘバ長崎控訴院函館控訴院ト云フヤウナ、斯ノ如キ遠隔ナル地方ノ控訴院ニ於テ、審判セラル事件ニ、遠隔地方ニ居ル被告人ガ遙々大審院デ事實ノ審査ヲ受ケルト云フ事ニナリマスルト、本人ハ勿論、又之ニ關係スル訴訟關係人ノ非常ナル不便ト費用ト云フ者ヲ費サナケレバナラヌ、又事件ノ移送ヲ避ケテ、成ベク大審院デ裁判ヲスルト云フ處置ニ致シタノハ、破毀後ニ事件ノ審理恢復ト云フ事モ「ツノ理由ニナッテ居ルト云フ事ハ、此説明書ニ書テアリマス、サウ致シマスト云フト、遠隔ナ地方ノ人ガ、大審院ニ事實ノ審問——事實ノ審理ヲ受ケルト云フ事ニナリマスト、自然被告人ノ出頭スルトセザルトハ別トシテ、事件ノ審理ニ暇取ルト考ヘル、譬へテ見レバ、長崎地方ノ人ハ、矢張自分ノ地方ノ辯護士ヲ賴ンデ大審院ニ出頭セシメルト云フ事ガ、是ガ感情ノ上ニ於テモ、人情ニ於テモ斟酌シナケレバナラヌ事項デアリマス、サウスルト遠隔ノ地ノ辯護人ハ非常ニ迷惑スル、隨て事實審理ガ暇取ル、ソレカラ又一面ニ於テハ許スベキ證人、許スベキ参考人モ、其地方デアレバ之ヲ許スガ、餘リ遠方デアルカラシテ、許サナイト云フ事ノ弊害モ生ズル、併シ裁判長ガ必要ナリト信ズレバ、サウ云フ關係カラ取調ヲ斟酌スルト云フ事ハ無イ譯デアリマスケレドモ、併シ此處ハ矢張裁判官モ人間デアリマスカラシテ、サウ云フ弊害モ生ジハセヌカト、斯ウ思ハレマス、殊ニ大審院ニ於テ審理ヲスルト云フコトノ結果、地方ノ控訴院ノ事件ガ非常ニ減ウテ來ル、大阪トカ長崎トカ云フ大キナ裁判所ハ別トシテ——長崎ハ餘り大キト思ヒマセヌガ、大阪ナドハ別トシテ、サウスルト、大審院ハ非常ニ膨脹シテ來ル、地方ハ非常ニ事件ガ減少シテ來ル、是ニ於テ多年司法省ノ計畫セラレテ居ル所ノ控訴院ノ廢合ト云フコトモ、自然起テ來ルト考ヘマス、デ或バ此種制度ヲ變更シテ、本案ノ如キ制度ニ改正セラル、眞意ハ、屢々問題トナフテ居リマスル名古屋、廣島、宮城、此控訴院等ハ廢スルコトヲ必要トスルト云フ考ヘカラ、出來タモノデハナイカト思ハレル節ガアル、一言ニシテ云ヘバ、控訴院ノ廢合ヲ行フト云フヤウナ希望ガアルノデアルカドウカト云フコトヲ、私ハ此上告制度ニ關シテ承ッテ置キタインデアリマスルカ、ドウカソレヲ承ッテ置キタイ

○横山(勝)委員 民事訴訟法ノ改正ノ事業モ、餘程前ヨリ着手致シテ居ルノデアリマスガ、マダ完成ヲ告ゲマセヌ

○横山(勝)委員 民事訴訟法ヲ改正セラルレバ、矢張此法案ノヤウニ事件ヲ大審院ニ集中スルヤウナ結果ヲ生ズル制度ヲ御設ケニナル御考デアルカドウカ、言葉ヲ換ヘテ申セバ、只今控訴院ニ於テ破毀シタル場合ハ、差戻移送トナッテ居リマス、ソレヲ矢張手加減ヲシテ、中央デ直ニ裁判ヲスルト云フ場合ヲ增加スル考ガアルノデアリマスカ

○林政府委員 只今御尋ノ中デ、第一ノ點ニ付キマシテハ本法ガ實施ニナリマスレバ、大審院ノ事務ガ今日ト比較シテ非常ニ繁劇ニナルト云フコトハ當然デアリマス、司法當局ニ於キマシテハ、大審院ノ部數ヲ增加致シテ、之ニ練達ノ

○横山(勝)委員 是ハ委員長ニ申シマスガ、私ハ他ノ事情デ午後此委員会ニ出席スルコトガ出来マセヌ、ソレデ私ノ質問シタイ事モ、質問スル機會ガアルマイカト思ヒマスガ、併シ成ベク此審議ヲ早ク進メタイト思ヒマスカラ、此場合簡単デアリマスカラシテ、少シ飛ビマスガ、略式手續ニ付テ一寸質問ヲ許サレタイ

○鶴澤委員長 横山君

○横山(勝)委員 第七篇ニ略式手續ノ規定ヲ持テ來ラレタ理由ヲ承リタイ

○林政府委員 略式手續ハ刑事訴訟手續ノ一つノ簡易手續ニ過ギナインデアリマスカラ、新シク法案ヲ立テルナラバ、是ハ別ノモノトシテズルヨリモ、併セテ法典ノ中ニ入レタ方ガ宜シト云フ考テ入レタニ過ギナインデアリマス

○横山(勝)委員 サウ致シマスレバ、全ク立法ノ技術ニ關スル形式ノ問題デアリマシテ、私ハ此七篇略式手續ニ關スル規定ハ、全部此際省イテシマフト云フ方ガ適當デアルト思フノンデス、後テ御審議ニナリマセウカラ、其意見ダケフ述ベテ、諸君ノ御審査ノ御参考ニ供シタイゾレデ宜シウゴザイマス

○鶴澤委員長 ソレデハアトハ午後二時カラ始メマス、休憩致シマス

午後零時二十一分休憩

○鶴澤委員長 是ヨリ陪審法案ノ委員會ヲ閉キマス、政府當局ノ説明ヲ求メヤウト思ヒマスガ、如何デスカ
「異議ナシ」と呼フ者アリ」

○鶴澤委員長 ソレデハ司法大臣

○大木國務大臣 只今御審議ヲ乞フ所ノ陪審法案ハ、御承知ノ如ク多年ノ懸案デアリマス、政府ニ於キマシテハ、人文ノ發達國運ノ進歩ニ鑑ミマシテ、刑事案件ニ付キマシテ、最善ノ制ヲ立テ、司法制度ノ完備ヲ圖ル事ガ、最モ時宜ニ適スルモノト認メマシテ、臨時法制審議會ニ諮リマシテ、審議會ニ於テハ幾多ノ議論ヲ闘ハセマシタ末、結局満場一致ヲ以テ陪審制度ヲ採用スルコトニ決シタノデアリマス、而シテ其法制審議會ニ於テ決シタル綱領ニ基キマシテ、政府ニ答申セラレタ結果、政府ハ其綱領ニ基キマシテ陪審法ヲ起案致シマシテ、樞密院ノ議ニ掛ケマシテ、而シテ今回始メテ衆議院ニ提出スルノ運ビト相成ッタ次第デアリマス、其間ニハ幾多ノ論議ヲ闘ハセ、政府ニ於テモ幾多ノ議論ヲ重不テ今日ノ運ビニ至リマシタコトハ昨日モ本會議ニ於テ申述べシタ如クデアリマス、政府ガ陪審制度ニ伴ウテ必要ト認メマシタ點ハ、國民ヲシテ司法事務ニ參與セシムルコトガ、

度アル如ク、人民ノ翼賛ニ依テ國務ヲ遂行シ、國家ノ進進ニ資スルコトハ、是レ即チ立憲政治ノ本旨ニ適フ所以ノ途デアル、斯様ニ確信シテ居ル次第アリマス、國務ニ對シマシテ國民ノ參與スル事ハ、方今益々其範圍ヲ擴ダル傾向デアリマス、是ハ何レノ國ニ於テモ、人文人智ノ發達進進ノ勢ニ依ツテ、起ルベキ傾向デアリ、又斯クナラネバナラヌ筈デアル、獨リ司法ノ事ノミガ、國民ノ參與ヲ絕對ニ遮閉スルト云フ理由ハ何トンシテモ考ヘラレナインデアリマス、若シ國民ノ參與ナキ所ノ制度ノミニ於テ、之ヲ以テ永久ニ推立テ、變化スルコトヲセザル時ハ、是ハ司法制度ノ完備ト云フコトハ言ハレヌト思フノデアリマス、又現今ノ制度ノ下ニ行ハル、所ノ刑事裁判ニ付テモ、今日國民ハ餘リ之ヲ信ゼス、不信ヲ懷クモノトハ考ヘラレナイノデアルガ、併ナカラ、陪審制度ヲ布キマシテ、國民自ラヲシテ裁判ノ席ニ參與スル機會ヲ得セシメタナラバ、必ズ之ニ依テ常職裁判官ノ或ハ時ニ依ツテ陷ラントスル處アル清弊ヲ矯正シ、國民ヲシテ益々裁判ヲ信賴セシメ、裁判ノ結果ニ少シノ不満ナカラシメントヲ圖ル事ハ、一國ノ政治及司法ノ見地ヨリシテ、是ハ喫緊ノ重要ナ制度デアルト信ズルノデアリマス、政府方此本案ヲ立ツルニ當リマシテ、殊ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ、我ガ帝國ノ憲法ト陪審制度ノ關係ニ付テ深ク考慮ヲ致シマシテ、其成條竝ニ規定ノ精神ニ順應セシムルコトヲ努メタノデアリマス、且又我國ノ風俗、又國民ノ習俗等ニモ鑑ミマシテ、唯理論ニ許リ趣ラズ、實狀ニモ適セシムルコトガ必要ナリト考ヘマシテ、此點ヲ甚深ニ注意ヲ拂タノデアリマス、單リ我國ノ國情習俗ニ鑑ミマシタノミナラズ、更ニ外國ニ於ケル法制ヲモ斟酌致シマシタ、併ナガラ外國ト我國トノ國情ヲ異ニシテ居ルコトハ、是ハ又國々ソレバノ習俗ガ違フト云フコトモ考ヘナケレバナラヌ、外國ニ於テハ陪審制度ノ創定ハ既ニ年久シク、今日ニ至テモ舊慣古格等ニ囚ハレル所モ多々アルガ故ニ、隨テ弊害ノニ伴フモノガ無イトモ、申サレヌノデアリマス、故ニ此制度ヲ創定スルニ當リマシテハ、政府ハ能ク其利弊ノ在ル所ヲ考ヘマシテ、弊ノ存スル所ハ努メテ之ヲ除去致シタ積リデアリマス、故ニ本案ノ内容ハ必シモ外國ニ於ケル所ノ此種ノ制度ト其趣ヲ一ニセザル所モ亦少クナインデアリマス、各條規定スル内容ハ、一々申上ゲルコトハ省キマスガ、本案ノ精神骨子トスル所ノ數點ヲ茲ニ擧ゲタリト思ヒマス、本案ニ於キマシテハ、刑事々件ノ公判ニ付テ陪審ヲ認ムルモノデアリマス、今日世ノ論者ノ論議モアリマスル起訴ニ關スル所ノ陪審及民事々件ニ付テノ陪審ハ、之ヲ認メナインデアリマス、又其次ニ本案ニ於テ犯罪事

實ノ有無ヲ評議シマシテ、其結果ヲ裁判所ニ答申スルモノニアリマス、即チ裁判權ハ一一ニ裁判所ノ一部ヲ行フモノデハナノト認メテ居ルノデアリマス、次ニ裁判所ガ罪ノ有無ニ關スル裁判ヲ爲スニ當リマシテ、陪審ノ答申ニ反シマシタ事實ヲ認定スルコトヲ得ズ、併ナガラ裁判所ハ陪審ノ答申ヲ不當ト認メマシタ時ハ、更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ルモノト定メタノデアリマス、法律上當然陪審ノ評議ニ付スベキモノト、被告人ノ請求ニ依リマシテ陪審ノ評議ニ付スペキモノト、此二種ヲ認メタノデアリマス、且ツ陪審ノ評議スペキ事件ハ、適當ノ範圍ニ制限致シテ居ルノデアリマス、是ハ創定ノ際、蓋シ已ムヲ得ザル次第アルト信ブルノデアリマス、法律上當然陪審ノ評議ニ付スヘキモノニ付キマシテモ、之ヲ辭退スルコトヲ許シテアルノデアリマス、決シテ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ強制シナイト云フ趣意ヲ此處ニ明ニシタノデアリマス、陪審員ハ、法律ニ定メタル資格アル者ノ中ヨリ、抽籤ヲ以テ之ヲ選定スルト云フ方法ヲ執ツタノデアリマス、此點ハ種々ノ政治上ノ争ガ激甚ニナルト、其餘波ガ此神聖ナル陪審制度ノ本旨ニマデ影響スルコトデアツテハ、大變デアルトノ憂慮ヨリシテ、此方法ヲ案出シタルアル者ノ中ヨリ、抽籤ヲ以テ之ヲ選定スルト云フ方法ヲ執ツタノデアリマス、之ヲ要シマスルニ、本案ニ定メマシタル所ノ陪審制ハ、固ヨリ歐米ノ長ヲ採フタニ相違アリマセヌガ、同時ニ短ヲ捨テタノデアリマス、必ズシモ歐米ニ行ハルル所ノモノ其儘ヲ移スト云フ次第ニハナイノデアリマス、吾ガ法制及社會ノ實情ニ適合セんコトヲ期シタ次第デアリマス、此制度ニ依リマンテ、司法裁判ヲシテ國民ニ接觸セシメ、以テ一般國民ノ信賴ヲ敦ウシ、且ツ社會ノ實情ト合致スルノ裁判ヲ見ルニ至ルベキコトヲ、政府ニ於キマシハ深ク信シ、且ツ之ヲ期待スル次第デアリマス、願クハ諸君、公平ナル御審議ニ依ッテ、一日モ早く文明國トシテ備フベキ所ノ此大ナル法案ノ通過アランコトヲ只管切望スル次第デアリマス

御尋致シタイノハ、本案ヲ單行法トシテ御制定ナサレタ趣意如何ト云フコトヲ御尋致シタイノデアリマス、御承知ノ通り陪法ハ佛蘭西ニ於キマシテモ、塊地利ニ於キマシテモ、獨逸ニ於キマシテモ、其他文明諸國ニ於キマシテ、大部分刑事訴訟法ノ一部竝ニ裁判所構成法ノ中ニ規定シテアリマシテ、唯英國ダケガ少シク異ツタ趣ヲ備ヘテ居ルト云フ譯デアリマス、而シテ日本ニ於キマシテハ、只今刑事訴訟法ガ審議中デアリマスガ、併セテ此中ニ規定スルコトガ、立法ノ形式トシテ、順序正シキモノデハナイカト思フノデアリマス、何故ニ之ヲ單行法トシテ規定ニナリマシタカ、能ク内容ヲ拜見致シマスルト、刑事訴訟法ト大分重複スルヤウナ點モアルヤウデアリマスガ、此陪審法ヲ新ニ制定スルト云フコトハ、司法界ノ一大革命デアッテ、之ハ手續上斯様ナ運ニハ至ラナカッタノヲ、單ニ其便宜ノ爲ニ斯ウ云フ單行法トシテ出スコトニナックト云フ趣意ダケデハ、單純ナソレダケニ止マルカ、或ハ他ニ今少シク理由ガゴザイマスカ、其點ヲ先ヅ承ツテ置キマス

○山内政府委員 私ヨリ御答致シマス、御承知ノ通り刑事訴訟法案ノ審議ハ二十年來掛チテ、中々遅々トシテ進マナイヤウナ次第デアリマシタ、ソレデ初メ陪審法案ヲ作リマスルノニ、大分急ギモシタデアリマスルガ、現行刑事訴訟法ヲ本ニシテ陪審法案ヲ作ッタノデアル、刑事訴訟法ハ何時成案ヲ得ルカト云フ事ガ、近頃ニ至ル迄判然シナカッタノデ、ソコデ初メ闇議ヲ請ヒ、更ニ樞密院ニ依頼シテ、第一ノ案ハ現行刑事訴訟法ヲ本ニシテ出来タヤウナ次第デアリマス、而シテ刑事訴訟法ノ改正調査委員ノ非常ノ努力ニ依リマシテ殊ニ夏休暇午前午後毎日通ジテヤリマシテ、色々議論ノ分レテ居ツタ所モ段々接近スル機會ニ至リマシテ、刑事訴訟法案ガ急ニ進捗ヲ致シタヤウナ次第デアリマス、ソコデ御承知デモアリマセウガ、此陪審法案ガ一回樞密院カラ撤回シタヤウナコトニナツテ居リマシテ、其所以ハ新聞紙等デモ色々批評ヲシテ居リマシタケレドモ、此刑事訴訟法案ノ文字ニ合セル爲ニ、陪審法案ノ字句ヲ修正スル爲ニ、之ヲ撤回シタ云フ形トナツテ居リマス、併ナガラ勿論質質ニハ何等ノ變リハナインデアリマス、ソレデ刑事訴訟法案ノ一部ニシテ、即チ刑事訴訟法ト陪審法ヲ同シ法律ニスルカ、或ハ之ヲ特別ノ單行法律ニスルカト云フコトニ付テ、サウ云フ事情デアルカラ、當初大シタ評議ガナカッタ、併ナガラ今日斯ヌナツテ來マスレバ、私強チ之ヲ一つノ法律ニシナケレバナラスト云フコトノミノ理窟ニ限ルモノデモナク、陪審ト云フ特別ノ關係ニ付テ、此獨立ノ法律ヲ作ルト云フコトモ立法上必ズ誤リデアルト云フコトハ、私ハ考ヘテ居ナイ、政府モサウ云フ考カラ、分ケテ一ツノ法案トシテ出シテ居リマ

スガ、體裁上決シテ是ガ惡イト云フコトデナイ、私ハ是デ相當デアラウト考ヘテ居ルノデアリマス
○鈴木委員 此問題ハ是デ打切りマスガ、第一ノ質問ニ入リマス、元來陪審員ノ職務ト云フモノハ事實ノ認定ヲ爲スニアリト私ハ信ジテ居ル者デアリマス、ソコデ事實ノ認定ハ矢張裁判デアルト確信ヲ致スノデアリマスガ、只今大木司法大臣ノ御演説ニ依リマスレバ、裁判ノ一部ヲ行フモノデナイト云フ御言葉デアリマシタガ、此點ハ私共甚ダ感ヲ生ズル次第デアリマスカラ、釋明ヲ求メタノノデアリマス○山内政府委員 外國ノ陪審ニ於キマシテハ、陪審員ガ事實ヲ認定シテ、之ガ裁判官ヲ囲束シテ事實ニ付テハ裁判官ガ自カラ認定スル権利ガナイト云フ事ニナッテ居ルヤウニ承テ居リマス、私ハ承ッテ居ルト申シマスノハ、私ハ陪審ノ方ハ外國ノ法制等ヲ甚ダ能ク調べテ居リマセヌ、ソレデ是等ノ點ニ付テ尙ホ詳細ノ事ハ他ノ政府ノ委員ヨリ申上ゲル、兎ニ角サウ云フ事ヲ承ッテ、是ハ事實デアルト考ヘテ居ル、然ルニ此案ハ色々は議論ノアツク結果トシテ、事實ノ認定ハ裁判官ガ之ヲ爲ス、斯ウ云フ事ニナッテ居ルノデス、ソレニ付テ陪審員ニ其事實認定ニ關スル諸問ト云ヘバ、諸問一一併ニモ餘程關係シテ居ル事デアリマスカラ、是ハ憲法ノ法理ニ極メテ精シイ法制局ノ政府委員カラ、場合ニ依テ御説明申上ガルコト考ヘテ居リマス、要スルニ裁判官ガ陪審員ノ答申ニ囲束セラレズシテ、其答申ヲ適當ト認メザルトキニハ、更ニ答申ヲ求メル、而シテ結局陪審員ノ答申ガ適當デアルト云フコトニ裁判官ガ認メル場合ニ於テ、其答申ニ基イテ事實ヲ認定スル、斯ウ云フ事ニナッテ居リマスカラ、事實認定權ナルモノハ、全ク裁判官ノ職權ニ在ルト云フコトニ、此法案が出來テ居ルノデアリマスカラ、陪審ノ事實ヲ認定シテ裁判ヲスル、勿論事實認定ガ裁判權ナリヤ否ヤニ付テモ、色々議論ガアツタノデス、兎ニ角裁判官ガ事實ヲ認定スルト云フコトニナッテ居リマスカラ、裁判權ノ一部ヲ陪審員ニ於テ行フモノデナイト、司法大臣ノ言ハレタノハ、今私が申上ゲタ意味ト御承知ヲ願ヒタイ

ヤウニ思フ、サウ致シマスト、結局裁判所ガ自己ノ意見デ裁判ヲスルト同ジ事ニナッテ、陪審員ノ答申ナルモノハマルデ無力ナモノニナッテ、陪審制度ノ根柢ト云フモノハ全然破壊セラレルヤウニ私ハ思フノデアリマス、矢張斯様ナ趣意ノ無力ナ陪審制度テ御満足ナサッテ、其意味テ御提案ナサッタノデアルカ、ソレヲ確メテ置キタイ

○山内政府委員 私ハ陪審員ノ答申ヲ無力トハ思ハナイノデス、成程理窟ヲ言ヘバ、千遍万遍陪審員ノ答申ヲ求メルト云フコトニモ理窟カラハナルカモ知レマセヌ、併ナガラ茲ニ一ツノ事案ニ付テ陪審員ノ意見ヲ求メル、陪審員ガ意見ヲ出す、裁判官ガソレラ承知シナイト云フヤウナ場合ニ、更ニ持出ス、又同様ノ答申ヲ得ル、サウ云フ場合ニ於テ自然陪審員ノ答申ガ如何ニ分ラザル裁判官トシテモ、而モ陪審員ノ裁判長ナル者ハ、最モ分ッタ人ヲ置カナケレバナラズ、其人ノ意見ヲ何處マデモ剛情ニ無視シテ行クカ、或ハソレニ動カサレテ、輿論ニ動カサレルノデハ其結果、私ハ事ノ實情カラ持テ來テ、自カラ意見ニハ動カサレル、所謂輿論ニ從フヤウニ實際ハナルト思フ、千遍万遍ト云フコトハ、ソレハ極端ナ話デアリマスケレドモサウ度々陪審ヲ付スル、答申ヲ求メル、又陪審、又答申ト云フ事ニナラウト思ハナイ、其處ハ事實ノ關係ニ於テ、事ノ情ニ於テ必ズ或ル適當ナ所デ意見ト云フモノハ定マルモノデアラウト云フコトヲ考ヘテ居ルノデス、理窟カラ言ヘバ、鬼モ角モ、事實上陪審員ノ答申ト云フモノハ、極メテ有力ナルモノデアルト考ヘテ居リマス

○鈴木委員 只今ノ山内政府委員ノ御答辯ハ、要スルニ實際論デアリマシテ、法律上ノ説明ニハナツテ居ナイト考ヘマス、ケレドモ是ハ長イ質問ヲ繰返ヘシテモ、同ジ御答辯デアラウト思ヒマスカラ止メマスガ、一言之ニ關聯シテ承ッテ置キタイノハ、此九十五條ニ規定シテアルヤウナ法制ヲ採ツテ居ル國ガ、世界中何處ニアルカヲ承ッテ置キタイノデス、是ハ林政府委員ガ一番適任デハナイカト思ヒマスガ英國ニ於テモ、獨逸ニ於テモ、無論此陪審ノ更新ト云フコトハ許シテアリマスガ、自カラ制限ガアッテ、二回目或ハ三回目ニ於テハ、必ズ陪審員ノ答申ニ禦束サレテ居ルノデス、サウデナクニ於テハ、一ツモ無イヤウニ私ハ心得テ居リマス、ソレデ此點ハ此案ノ最モ特色トスル所デゴザイマス

○鈴木委員 世界ニ無イ法制ガ特色ダト仰セラレマスガ、私ハ是ハ誠ニ此案ノ一大缺點デアルト思ツテ居リマス、併シ

是ハ意見ノ相違トシテ置キマシテ、ソレカラ昨日横田政府委員ガ、本員ノ質問ニ對シテ御答ヘニナツ御言葉ノ中ニ、又關直彦氏ノ質問ニ對スル御答ノ中ニ、本案ニ於ケル陪審員ノ職務ト云フモノハ、諸問機關ヨリハ少シク強ク、決議機關ヨリハ少シク弱イト云フ御説明ガアリマシタガ、此意味ガ甚ダ明瞭デナイノデアリマス、今少シ法律的ノ御説明ハ無イモノデアリマセウカ

○横田政府委員 其點ニ付テノ御質問ニ付テハ、憲法上ノ問題カラ御答ヲスル方ガ便制デアル、昨日要領ヲ申上ガル通り、憲法何條デアリマスカ、七十五條デアリマスカ、憲法ニアリマスル裁判ト云フ言葉ヲ、一定ノ事實ニ法律ヲ適用シ闡明スルト云フ或ル部分ノ憲法學者ノ解説ニ則リマスレバ、此陪審法ヲ作ル上ニ於テ、鈴木君ノ御希望ニナルガ如キモノガ實ハ出来テ居ル、然ルニ法制審議會ニ於テハ、其說ヲ否定スル論者モ中々憲法學者ニ於テモアル、裁判ハ事實ニ認定ガラ法律ノ適用等モ之ヲ包括スルモノデアル、此議論ノ調和ト云フモノハ、中々ムヅカシカタノデアリマス、當局ハ研究ノ結果後段ノ方ノ說ヲ採テ、裁判ノ性質ヲ斷定スルノヲ適當トシタノデアリマス、是ニ於テ憲法ノ條章ヲ改正シテモ、國民多數ノ要求必要已ムベカラザルモノデアレバ、是ハ差支ナインテアリマスガ、憲法ノ改正ト云フコトハ、頗ル重イノデアリマス、憲法ヲ改正セズニ、憲法ノ解釋内ニ於テ運用ノ付クベキ法律ヲ以テ、先づ現在ニ於ケル所ノ陪審制度ナルモノニ對スル國民ノ欲求ヲ滿足セシムルコトガ出來ルカドウカ、斯ウ云フ意味ニ於テ審議スルコトニナツタノデアリマス、是ニ於テ此五十七條ノ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ裁判所ノ職權ニ屬スルモノデアル、斯ウ先づ極メテ行カナケレバナラヌ、裁判所ノ裁判權ト云フモノヲ國民ノ手ニ採取ルコトハ、ドウシテモ出來ナイ、併シ國民ノ方面カラ、事實認定ノ補助機關トシテ、陪審ヲ抽籤ナリ選出ナリシテニ參與セシメルト云フコトハ、是ハ五十七條ノ解釋カラ當然差支ナインコトニ屬スル、此意味カラ此案ガ出來タ譯ニナツテ居リマス、ソコデ然ラバ出來ルコトノ共解釋ノ下ニ、有力ナル陪審員ヲ作りタイ、有力ナル陪審ノ評決ヲ求メタイ、斯ウ云フ意味カラ出来タモノガ、即チ司法省ハ裁判所ノ判定テ事實ヲ認定スルケレドモ、請求陪審ナリ、法定陪審ナリ必ズ其事實ノ認定權ハ陪審ノ答申ヲ俟タナケレバナラヌ、陪審ノ答申ト裁判所ノ意思ガ合致スル所ニ、所謂裁判所ガ事實上ノ判斷ガ出来ルト云フコトニ解釋シタナラバ實際ノ上ニ於テ陪審ノ評議ノ威力ヲ強メ、先づ今日ノ程度トシテハ、最初ノ試ミトシテハ、ソレデ満足スルコトガ出來ヤウ、此意味ニ於テ出來タノデアリマス、ソコデ世間謂フ所ノ諸問機關ナルモノハ、諸

問者カラ被諸問者ニ答申シテ、事柄ノ採擇ハ——採擇シナイデ別箇ノ斷定モ出來ル、所ガ本案ハソレガ出來ナイ、答申ニ基カラケレバナラケレドモ氣ニ入ラナイ時ハ、何時デ變ヘルト云フ所ニ緩和サレテ居リマスガ、其處グケニ違ヒガアリマスカラ、其點ハ普通謂フ所ノ諸問機關ヨリモ其威力ガ強イ、評決ノ機關ト云フモノハ、先づ大體ニ於テ其評決ノ時ニ行ハレルコトニナツテ居ル、今ノ法制ノ上ニ於テ、評決ニ依テ表示サレタ時ニ遂行サレルコトニナツテ居ル、所ガ必ズサウ許リハイカナイ、斯ウ云フ所ニ本案ノ陪審ノ評議ナルモノガ、評決機關ヨリモ其性質ガ弱マツテ居ル、此事情ヲ申上ガタノデアリマス、ソコデ政府當局ノ見ル所ニ於テハ、既ニ鈴木君及委員各位ノ御承知ノ通り、歐米各國ニ於テ陪審ノ制度ヲ布カレテ居ル、其陪審ノ制度ニ付テ、之ヲ裁判官ノ獨斷專行ニ逆戾リヲシヤウト云フ議論ハ無ニシテモ、陪審ノ弊害ト云フモノニ付テハ、非常ナル議論ガアルコトハ、昨日鈴木君カラ御紹介ヲ受ケタヤウナ次第デ、此新ナル法制ヲ布クノデアリマスカラ、此程度ニシテ置イテ、丁度中間性ノヤウナモノヲ捨ヘテ置イテ、國民ガ此法制ヲ運用スルニ確ニ適當デアルナラバ、自然ト陪審ハ信用ト威力ハ實際ノ運用ノ上ニ於テ立ッテ來ル、其運用ニ依テ威力ガ付クカ、或ハ失敗スルカト云フコトニ付テハ、今少シ此法制ノ施行セラレル前途ヲ見テ、徐ロニ改善ニ手ヲ加ヘナケレバナラヌト云フノガ本案ガ生レタ所以、アリマシテ、反対ノ側カラ不徹底ト極メズ、外國ノ法制ニ無イモノデアツテ今林君ノ言ヲタ特色トスル所ハ、眞ニ當局トシテハ本案ハ特色デ是ガ最モ宜イト云フコトノ偽ラザル觀念ヲ持ツテ居ル、御意見ガ達フカ知レマセヌガ、サウ云フ觀念ヲ實際持ツテ居リマス、法制審議會ニ於テモ、樞密顧問官ノ賛成サレタ意味合モ、茲ニ重キヲ措イテ賛成サレテ居リマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

○鈴木委員 意見ハ別シテ、御趣意ノアル所ハ分リマシタ、序ニ伺ヒマスガ、評決ト云フ文字ヲ評議ト云フ文字ニ直シタコトハ、甚ダ私共遺憾ニ思ヒマスガ、先程カラノ御説明ヲ承ハレバ、結局評決ト云フ文字モ、評議ト云フ文字モ、同じ趣意ト云フヤウニ諒解サレルノデアリマスガ、サウ云フコトデ差支アリマセヌカ

○山内政府委員 此前ノ司法省ノ案ニハ、評決トアリマシタガ評議ト改メマシタ、其趣旨ハ前後毫モ變ツテ居ラナイノデアリマス

○鈴木委員 ソコデ伺ハナケンバナラヌ、趣旨ハ變ラナイマシテ、陪審ガ有罪ノ評決宣言ヲ爲ス場合ニ於テ、犯罪者ノ情狀懶量スペキモノガアル場合ニ宥怒申請、即チ原語「レコンメンテーションゾー、マーレー」ト云フ言葉ヲ使ツテ居リマスガ、此宥怒申請ヲ宣言」答申ニ附加スルコトヲ許シテフノデ同意シテ居ル譯デアリマス、行掛リヲ御説明致シタナラバ、却テ御了解ガ宜カラウト思ヒマス

○鈴木委員 分リマシタ、次ノ質問ニ移リマス、英國ニ於キマシテ、陪審ガ有罪ノ評決宣言ヲ爲ス場合ニ於テ、犯罪者ノ情狀懶量スペキモノガアル場合ニ宥怒申請、即チ原語「レコンメンテーションゾー、マーレー」ト云フ言葉ヲ使ツテ居リマスガ、此宥怒申請ガ違ハヌノデアルカラ、差支ナイ、斯ウ云ト云フテ、何モ意味ガ違ハヌノデアルカラ、差支ナイ、斯ウ云フノデ同意シテ居ル譯デアリマス、行掛リヲ御説明致シタナラバ、却テ御了解ガ宜カラウト思ヒマス

○馬場政府委員 本案デハソレハ認メテ居リマセス

○鈴木委員 ソレカラ陪審ノ運用ニ方リマシテ一番大切ナコトハ、既ニ辯論ノ終了シタル後ニ於テ、裁判長方陪審員ルコトハ、既ニ辯論ノ終了シタル後ニ於テ、裁判長方陪審員ニ對シテ與ヘル所ノ説示デアリマス、即チ第七十七條ニ規定シテアリマス説示、此説示ノ文字ノ中ニハ、事實摘示並教示、此兩者ヲ包含スルモノデアルヤ否ヤ、即チ英法ノ所謂

イ、立憲政治ノ下ニ、其奥ニ隠レテ居ル現政府ノ理想ハ何所ニ在ルノデアルカ、現政府ノ目的ハ何所ニアルノデアルカト云フ根本ニ付キ、大臣一流ノ明快ナル説ヲ承テ、而シテ本案ヲシテモット權威ノアルモノニシタトイ思ヒマス、此點ニ對スル御意見ヲ承リタイ

○大木國務大臣 横山君ノ御質問ハ、半ば以上ハ御意見デアリマス、私ノノ提案ノ趣旨トシテ述べマシタル所ハ、固ヨリ人文ノ發達文運ノ隆盛ト共ニ、唯職業的裁判官ノミニ之ヲ打委シテ置クコトガ、現在茲ニ非常ナル弊害アリトハ決シテ申サヌ、最初ニ申述ベタルガ如ク、時ニ或ハ陥ラントスル所ノ處アル弊ラ矯メルコトニ付テモ、常職的判事以外ノ常識ニ富ム所ノ者、又専門的見地ニ捉ハレザル所ノ者ヲシテ、事實ノ認定ニ參與セシムルコトガ、是ガ蒙昧野蠻ノ人民デアルナラバ、其處ニ遺憾ガアルトモ、常職的ノ判事ニ委セル外ハナイノデアリマス、併ナガラ人文發達シタル今日ノ状態ニ於キマシテ、常識ヲ有スル所ノ人民ヲシテ之ニ參與シムルト云フコトハ、一面ニ於テ立憲的施設トモ言ハレルシ、又一面ニ於テハ實際的施設トモ思ハレルノデアリマス、唯漠然タル立憲的或ハ民本ト云フヤウナコトハ考ヘテ居ラヌ、民本ト云フコトハ元首ノ転念セラル、所ノ、洵ニ有難キ思召デアリマス、吾々國民トシテ、民本ト云フヤウナコトハ考ヘテ居ラヌ、又民本ト云フモノガ、必ズ立憲ナドトハ思ハナイ、今日ノ裁判ノ状態ニ於キマシテモ、動モスルト常職ニノミ捉ハル、判事ガ、時ニ陥ラントスルノ弊ラ匡救スルノ一助トモナル、裁判ハ事實ノ判定ニ於キマシテ、或ハ其處ニ多少ナリトモ判断フ誤ルコトガ、アグダナラバ、私ハ其結果ハ恐ルベキモノデアラウト思フ、其恐ルベキ結果ニ已ムヲ得ズ從ハニヤナラスト云フコトハ、即チ今日ノ立憲ノ大精神ニハ適テ居ラヌト思フ、苟モ冤枉ナキコトヲ期スル云ガ、立憲ノ本旨デアルト思フ、私ハ此趣旨ニ於キマシテ、此提案ガ必要デアルト確信シテ疑ハナイノミナラズ、倫理トカ、道徳トカ、信義トカ正義トカ、色々ナ御説ガアリマシタケレドモ、左様ニ述べ立テ、一々之ニ對シテ御説明ヲ申上ゲル必要ハナイ、唯大體ニ於キマシテ文化ノ進歩、現代ノ國民ノ状態ニ鑑ミテ、單リ常職ノ判事ニ許り打委セズ、事實ノ認定ハ國民ヲ參與セシムルコトガ、是ガ一面ニ於テ理想デアルト共ニ、又實際デアル、斯様ニ考ヘルサリナガラ今日ノ裁判ニ於テ、非常ナル缺陷ガアルトハ私ハ認メナイ、併シヨリ以上ニ良クシタ、天中一人モ冤枉カラシムルコトガ理想デアル、私ハ此理想ニ近ヅカシムルノガ文明的施設デアルト、左様ニ信ジテ提案シタ次第デアリマス

○横山(勝)委員 大臣ノ御話ハ、御話ダケハ能ク分リマシタ、併シ本員トシテハ、御説明ダケノ理由ニ付テ、本案ガ是ナリト云フ事ノ斷定ニハ到達スル事ヲ欲シナイノデアリマスガ、議論デアルト云フコトデアリマスカラシテ、ソレハ姑ク避ケマス、徒ニ言葉尻ヲ捉ヘルコトハ致シタクハアリマセヌ、隨テ言葉ノ末節ニ拘泥シテ彼此レ言フコトハ致シマスガ、理由ノ説明又大臣ノ演説カラ申シマスト、司法制度ノ完備ヲ圖ルノガ本案ノ目的デアルト云フコトデアリマスカラシテ、兎ニ角現制度ニ懐ラザル不完全ノ點ガアルト云フコトハ御認メニナツテ居ル、然ルニ如何ナル不完全ナ點ガアルト云フコトハ、茲ニ御言明ニナツテ居ラヌ、唯參與セシムルコトガ立憲政治ノ本旨ニ適スルノデアルト云フ側カラ申サレテ居ル、併ナガラ今日ノ檢事制度ニ致シマシテモ、又裁判制度ニ致シマシテモ、非常ナ缺陷ガアルト云フコトハ、是ハ恐ラク御認メニナツテ居ルグラウト思フ、日本辯護士協會トカ其他ノ人々カラシテ、大木司法大臣ノ前ニ人権蹂躪問題ヲ掲ゲテ色々懇請ヲ致シ、談判ヲ致シテ居ル次第ハ、是ハ司法制度ノ缺陷ヲ語ツテ居ルノデアル、然ルニ司法大臣ハ斯ノ如キ缺陷ヲ無カラシメンガ爲ニ、本案ヲ御提出ニナリ、又理由書ノ中ニ司法制度ノ完備ヲ完ウスル爲ニ本案ヲ出シタノデアルト明言セラルルノデアリマス、即チ司法大臣ハ目下ノ我國ノ司法裁判ニ通ジテ存在致シテ居ル所ノ時弊ト云フモノヲ、確ニ御認メニナツテ居ルト考ヘマス、御認メニナルトスレバ、時弊ガアルカモ知レナイト云フ疑ヲ以テ居ラル、コトハ事實ト考ヘマスゾレハ最近ニ於ケル京都事件ノ如キハ、確ニ其例證デアリマス、ソコデ進ンデ私ガ申上ガルノハ、目下ノ裁判制度ニ缺陷ガアルトシテ、其缺陷ヲ補フ爲ニ陪審法案ヲ提案サレタノデアルト、斯ウ私ハ認ヌル、ソレハ如何ナル弊デアルカト言ヘバ、個々ノ裁判ニ付テ罪ガ輕イトカ、重イトカ、審理ノ方法ガ惡イトカ云フヤウナ、多クノ人民ニ依テ唱ヘラレテ居リマス所ノ所謂裁判ニ對スル不平、斯ノ如キモノヲ捉ヘテ、直ニ私ハ司法制度ノ缺陷トハ申シマセヌ、併ナガラ斯ノ如キ不平ガ炎々トシテ人民ノ間ニ絶エヌト云フ事柄ハ、矢張司法制度ノ十全ナラザル事ヲ語ツテ居ルト私ハ考ヘル、然ラバ裁判ノ根本缺陷ハ何デアルカト云フ、裁判ノ手續ガ善イトカ、惡イトカ、裁判所ノ性質ガ善イトカ惡イトカ云フ問題デハナシ、吾々ノ論ズル根本ノ缺陷ト云フモノハ、裁判ヲ爲ス所ノ人ト、裁判ヲ受クル人民側ノ諒解ガ無イト云フコトガ、一ツノ缺陥デアル、ソレハ過日モ檢事制度ノ事ニ付テ、刑事訴訟法案ノ審議ノ際ニ、極メテ簡単ニ一言シタ事モアリマス、例ヘテ見レバ茲ニ一ツノ刑事ノ事案アリト致シマス、東京地方裁判所管内ニ於テ、東京地方裁判所ノ軒下ニ起タ事案ヲ、東

ト云フモノニ親シク接近シテ居ルノデアリ、マスカラ、比較的公平ナル裁判ガ出來ル、又人民ノ側ニ於テモ、安ンジテ此裁判ヲ受ケルコトガ出來ル、然ルニ今日ノ状態ハドウカト申シマスト、東京控訴院ニ致シマシテモ、大阪控訴院ニ致シマシテモ、其他ノ控訴院ニ致シマシテモ、餘程廣イ管轄ヲ持テ居ル、ソコデ私ハ例ヲ控訴院ノ關係ニ立て、申スノデアリマスガ、例ヘテ見レバ、茲ニ長野縣ノ一僻村ノ一人民ガ一ツノ罪ヲ犯シテ、サウシテ長野地方裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケテ、東京控訴院ニ上訴ヲシテ參タト假定致シマス、此場合ニ當該裁判官ハ、警察官、檢事、豫審判事、若クハ第一審ノ裁判官等ノ作ツタ記錄ヲ僅ニ一瞥ヲ致シテ、サウシテ此長野縣ノ犯罪人ノ地方ノ習慣ハ如何ナモノデアルカ、人情風俗ハ如何ナモノデアルカト云フコトハ無論知ラナイ、而シテ出テ來ル被告人モ、男女ノ區別年齢ノ點ハ判ツテ居リマスケレドモガ果シテ病氣揚句ノ人デアルカ、健全ナ人デアルカ、此間モ申上げマシタ如ク、丸イ顔ヲシタ人間デアルカ、四角ナ顔ヲシタ人間デアルカ、何モ分ラナイ、而シテ裁判ヲ受クル被告人ノ側カラ申シマスト、裁判官ガ人民ヲ見テ居ル不安ヨリモ、尙ホ危険デアル、嚴格ナル相手方ノ位置ニ立テ居ル檢事ハドウ云フ人間デアルカ、見タコトモ聞イタコトモナニ、琉球ノ人間デアルカ、北海道ノ人間デアルカ、ソレモ分ラナイ、又裁判長モ、陪席モ、書記モ、日本デハアラウガ、一體何處ノ人間デアルカ、年齢突然出合頭ニ出テ來テ、オ前ガ被告人デアルカ、貴方ガ裁判官デスカト出合頭ニ裁判ヲヤツテ居ル、吾々ガ一ツ縞帳芝居ヲ見ルニシテモ、豫メ此芝居ニ何ト云フ役者ガ出テ、ドウ云フ藝ヲ演ズルカト云フ位ノ智識ヲ以テ出ルノデアリマスガ、今ノ裁判ハサウデナイ、之ヲ極端ニ言ヘバ吾々ハ日本デアツテ、西洋人ノ裁判ヲ受クルト同様ノ状態ニナッテ居ル、是ハ私ハ一ツノ控訴院ノ例ル取テ言、タノデアリマスガ、下ハ區裁判所、上ハ大審院ヲ通ジテ、人民ト裁判官トノ間ニ諒解ガナイ、其裁判ニ對シテ不安ヲ有チ、又裁判官ノ側ニ於テモ、裁判ハシタケレドモ、是ガ果シテ實際ノ事情ニムル、裁判ト云フモノト、人民トノ密接ヲ圖ル、或ノ申シ

テ居リマスル如ク、裁判所ノ民衆化ヲ計畫スルノデアル、此故ニ一ツノ犯罪事件が起ラタスルト、其犯罪事件ト云フモノハ、元來其親ガ裁判スルノガ一番適當デアル、親ガ若シ居ラナカタナラバ、其近隣ノ人ガ裁判スルノガ適當デアル、ソコマデ裁判ト云フモノヲ擴張スル譯ニイカヌカラシテ、茲ニ裁判所構成法ヲ設ケ、限局セラレタル範圍内ニ於テ、裁判官デアルトカ、陪審員ガ裁判スルコトガ必要デアルノデアル、即チ裁判所ニ民衆ヲ入レテ、今ノヤウナ門ヲ閉デタ裁判所デハ、恰モ人民ガ裁判所ニ行クハ、恰モ監獄ニ行クヤウナ思想ヲ有ッテ居ル、之ヲ打破シナケレバ、ナラス、裁判所ヲ諒解セシムルト云フコトガ即チ裁判ヲ信用スル所以デアル、人民ノ信用ニ依テ始メテ裁判所ノ威信ト云フモノガ立ツノデアリマス、此根本的ノ缺陷ト云フモノガ、日本ノ裁判所一大審院ヨリ區裁判所ヲ通ジテノ時弊デアルト私ハ考ヘマス、即チ之ハ裁判所ニ於テ缺陷ガアルノデ、裁判制度ニ於テ非常ナル缺陷ヲ持テ居ル、其他個々ノ事件ニ付テ、個々ノ裁判、個々ノ判事、檢事方間違タ裁判ヲシタ、不當ノ判決ヲシタ、人權ヲ踰越シタカシナイトカ云フコトハ、抑ソレカラ流レ出ヅル所ノ結果デアル、今日迄ハ人權踰越ノアリシ場合ニ、人權問題ヲ呼號シテ居ル者ガ可ナリアルケレドモ、其根本主義ニ着目シナサイ、人權踰越ノ由ツテ起ル源ヲ其儘ニシテ、人權踰越ニ對シテ應急手當ヲ致シテ居タノデアル、幸ニ現内閣ノ國策トシテ、司法大臣ノ名ニ依テ陪審制度ヲ説明セラルト云フ際ニ、大臣ガ徒ニ現裁判ニハ缺點ガナインデアル、併シ其口裏ノ反面ニ於テハ、動モスレバ官僚裁判ノ弊ニ陷ラントスルノ時弊ガアルト云フヤウナコトヲ仰シヤテ居ル、今私が申上ゲタヤウナ缺陷ガアルカラシテ陪審制度ヲ出スノデアルト云フコトヲ、司法當局ナリ其他政府委員カラ言明ヲ得ルコトガ出來マセウカ、私ハ斯様ノ意味ニ於テ現制度ハ——此法案ガ立案サレタモノデアルトシテ敬意ヲ拂ヒタイノデアリマスガ、斯ウ云フコトハ私ノ全ク見當外レノ論デアリマセウガ、ソレヲドウカ承リタイ

○山内政府委員 極メテ詳密ナル、而シテ傾聽スベキ御議論ヲ承ッタコトヲ感謝スルノデアリマス、今日ノ司法事務ノ取扱ニ缺陷ガアルヤ否ヤト云フコトハ、司法制度其物ニ耳ニ致シテ居リマス、併ナガラ大體ニ於キマシテ、今日ノ制度ノ下ニ、裁判其他の司法事務ガ甚ダモウ信頼ガ出來ナイト云フ程、マヅイ取扱ヲシテ居ルノデナイト云フコトハ、司法大臣ノ説明ニアッタト思ヒマス、既ニ此理由書ニモアル通

リ、司法制度ノ完備ヲ圖ル、完備ヲ圖ル以上ハ、是微リセバ制度ニ缺陷ガアッタ云フコトダケハ、私ハ當然ノ事デ茲ニ裁判所構成法ヲ設ケ、限局セラレタル範圍内ニ於テ、裁判官デアルトカ、陪審員ガ裁判スルコトガ必要デアルノデアル、即チ裁判所ニ民衆ヲ入レテ、今ノヤウナ門ヲ閉デタ裁判所デハ、恰モ人民ガ裁判所ニ行クハ、恰モ監獄ニ行クヤウナ思想ヲ有ッテ居ル、之ヲ打破シナケレバ、ナラス、裁判所ヲ諒解セシムルト云フコトガ即チ裁判ヲ信用スル所以デアル、人民ノ信用ニ依テ始メテ裁判所ノ威信ト云フモノガ立ツノデアリマス、此根本的ノ缺陷ト云フモノガ、日本ノ裁判所一大審院ヨリ區裁判所ヲ通ジテノ時弊デアルト私ハ考ヘマス、即チ之ハ裁判所ニ於テ缺陷ガアルノデ、裁判制度ニ於テ非常ナル缺陷ヲ持テ居ル、其他個々ノ事件ニ付テ、個々ノ裁判、個々ノ判事、檢事方間違タ裁判ヲシタ、不當ノ判決ヲシタ、人權ヲ踰越シタカシナイトカ云フコトハ、抑ソレカラ流レ出ヅル所ノ結果デアル、今日迄ハ人權踰越ノアリシ場合ニ、人權問題ヲ呼號シテ居ル者ガ可ナリアルケレドモ、其根本主義ニ着目シナサイ、人權踰越ノ由ツテ起ル源ヲ其儘ニシテ、人權踰越ニ對シテ應急手當ヲ致シテ居タノデアル、幸ニ現内閣ノ國策トシテ、司法大臣ノ名ニ依テ陪審制度ヲ説明セラルト云フ際ニ、大臣ガ徒ニ現裁判ニハ缺點ガナインデアル、併シ其口裏ノ反面ニ於テハ、動モスレバ官僚裁判ノ弊ニ陷ラントスルノ時弊ガアルト云フヤウナコトヲ仰シヤテ居ル、今我が申上ゲタヤウナ缺陷ガアルカラシテ陪審制度ヲ出スノデアルト云フコトヲ、司法當局ナリ其他政府委員カラ言明ヲ得ルコトガ出來マセウカ、私ハ斯様ノ意味ニ於テ現制度ハ——此法案ガ立案サレタモノデアルトシテ敬意ヲ拂ヒタイノデアリマスガ、斯ウ云フコトハ私ノ全ク見當外レノ論デアリマセウガ、ソレヲドウカ承リタイ

、居ル者モアルデアラウ、是ガ一家ノ者デアッタナラバ、裁判所ニ喚出サレルト云フコトハ、非常ニ其家ハ混雜ヲ來シテ居ルト云フコトハ、苟モ裁判官タル者ハ、常ニ念頭ニ持ツテ居ラナケレバナラヌト云フコトヲ、私ハ裁判官等ニ話スノデアリマス「謹聽」ト呼フ者アリ「恰モ他人ノ事件ヲ取扱フガ如ク、又物ヲ賣ルガ如ク、恰モ事件ヲ取扱フノニ、同情ナキ職務ニ馳レタ結果ガ全ク事件ヲ常職的ニ裁クト云フ様ナ事ニナツテ、裁判官ト人民トノ間ノ同情ト云フモノハ缺ケル、而シテ多クハ商賣的ニナルト云フカ、職業的ニナルト云フ事ガ、此同情ノ繋ガリヲ失フト云フ事ニ傾キ易イノデアリマス、自分分商賣人的ニナルカラ、自然ニ人ノ間同情ニ交渉ガナクナルヤウニナルト思フノデアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラ、自ラ裁判官ニ——常職的ノ裁ニナリマスト、情ノ關係ハ缺ケテ居ルト云フ傾カアルト云フ事ヲ考ヘテ居ル、ソレラ當事者ハ更ニ深ク考ヘル事デアラウト私ハ考ヘテ居ル、裁判官ト云フモノハ、何等ノ同情ヲ持ツテ居ラヌノデアリマス、持ツテ居ラヌテモソレガ分ル譯ガナイ、僅ニアレハ同情アル裁判官デアルト云フ事位ハアルカモ知レマセヌガ、根本制度ノ上ニ於テ、ドウシテモ職業的判断事ノ裁判ヲ受ケルト云フヤウナ不安心ガアルト云フコトハ、獨リ裁判ノミナラズ、或ハ會計事務ノコトデアッテモ、或ハ會社ノ事務ノコトデアッテモ、自ラ其間ニ何カノ連絡ガナケレバ、茲ニ同情ガ相互ノ間ニナイヤウナコトガアル、ソレデ私ノ考デハ陪審ト云フノハ、要スルニ民衆側ガ自分ノ事ヲヤルコトデアルガ故ニ、自分ノ同情ヲ最モ強クスベク、成ベク民衆ガ自ラ事實ノ判斷ヲスルト云フコトガ、此職業的裁判ニ依ツテ生ゼントスル弊ヲ矯メル上ニ於テ、良イ制度考ヘテ居ルノデス、サウ云フ意味デ私ハ陪審ノ必要デアルト云フコトヲ考ヘテ居ルシ、又一面ニ於テ裁判官ダケヲシテ事實真相ヲ得ルコトニ付テ全責任ヲ負ハセルノハ酷デアル、餘程頭ノ良人デアリ、餘程事情ニ通ジテ居ル人デアシテモ、實際ニ於テ神ナラズンバ、事實ノ真相ヲ遺憾ナク、誤

ナク、完全ニ凡テノ事件ニ付テ判断スルコトハ不可能デアル、之ヲ常職的裁判官ニ對シテ責ムルノハ無理デアル、是モ制度ノ缺陷ノ一ツデアル、故ニ果シテ陪審ナラバ、凡テノ事事實ノ真相ニ合フ、其合フコトガ現在ノ裁判官ノ判断ニ優ルト云フコトハ豫言致シマセヌガ、此事實ノ判断ノ接ノ交渉ノアル人間デハナイ、又交渉ナキ人ガ裁判ヲスル、今日ハサウナツテ居ル、私ハ自ラ裁判事件等ニ付テ、能ク考ヘタ事件ガアル、或事件ヲ裁判シテ居ル時ニ、退イテ是ガ自分ノ一家ノ事デアッタラドウデアルカト云フヤウナ事ヲ考ヘタコトガアル、證人トシテ喚出サレ、或ハ被告人トシテ喚出サレタ時ニ、其家ハ多分大騒ギヲヤツテ居ルデアラウ、或ハ家内デ泣イテ居ル者モアルダラウ、或ハ娘デ病氣デ慌テ居ル者モアルデアラウ、是ガ一家ノ者デアッタナラバ、裁判所ニ喚出サレルト云フコトハ、非常ニ其家ハ混雜ヲ來シテ居ルト云フコトハ、苟モ裁判官タル者ハ、常ニ念頭ニ持ツテ居ラナケレバナラヌト云フコトヲ、私ハ裁判官等ニ話スノデアリマス「謹聽」ト呼フ者アリ「恰モ他人ノ事件ヲ取扱フガ如ク、又物ヲ賣ルガ如ク、恰モ事件ヲ取扱フノニ、同情ナキ職務ニ馳レタ結果ガ全ク事件ヲ常職的ニ裁クト云フ様ナ事ニナツテ、裁判官ト人民トノ間ノ同情ト云フモノハ缺ケル、而シテ多クハ商賣的ニナルト云フカ、職業的ニナルト云フ事ガ、此同情ノ繋ガリヲ失フト云フ事ニ傾キ易イノデアリマス、自分分商賣性的ニナルカラ、自然ニ人ノ間同情ニ交渉ガナクナルヤウニナルト思フノデアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラ、自ラ裁判官ニ——常職的ノ裁ニナリマスト、情ノ關係ハ缺ケテ居ルト云フ傾カアルト云フ事ヲ考ヘテ居ル、ソレラ當事者ハ更ニ深ク考ヘル事デアラウト私ハ考ヘテ居ル、裁判官ト云フモノハ、何等ノ同情ヲ持ツテ居ラヌノデアリマス、持ツテ居ラヌテモソレガ分ル譯ガナイ、僅ニアレハ同情アル裁判官デアルト云フ事位ハアルカモ知レマセヌガ、根本制度ノ上ニ於テ、ドウシテモ職業的判断事ノ裁判ヲ受ケルト云フヤウナ不安心ガアルト云フコトハ、獨リ裁判ノミナラズ、或ハ會計事務ノコトデアッテモ、或ハ會社ノ事務ノコトデアッテモ、自ラ其間ニ何カノ連絡ガナケレバ、茲ニ同情ガ相互ノ間ニナイヤウナコトガアル、ソレデ私ノ考デハ陪審ト云フノハ、要スルニ民衆側ガ自分ノ事ヲヤルコトデアルガ故ニ、自分ノ同情ヲ最モ強クスベク、成ベク民衆ガ自ラ事實ノ判斷ヲスルト云フコトガ、此職業的裁判ニ依ツテ生ゼントスル弊ヲ矯メル上ニ於テ、良イ制度考ヘテ居ルノデス、サウ云フ意味デ私ハ陪審ノ必要デアルト云フコトヲ考ヘテ居ルシ、又一面ニ於テ裁判官ダケヲシテ事實真相ヲ得ルコトニ付テ全責任ヲ負ハセルノハ酷デアル、餘程頭ノ良人デアリ、餘程事情ニ通ジテ居ル人デアシテモ、實際ニ於テ神ナラズンバ、事實ノ真相ヲ遺憾ナク、誤

ト言ッテ宜イカ、道徳ト言ッテ宜イカ、横田法制局長官ノロヲ藉リテ言ヘバ、道徳ト法律ノ中間デアルト言ッテ宜カラウト思フ、即チ是ハ民事ニ對ヌルノ陪審デアルト言ッテ宜カラウト思フ、文字ハ何ト書イテアッテモ、地主ト借地人トノ關係、或ハ家主ト借家人トノ關係、即チ富豪ノ關係ト貧民トノ關係ヲ法律類似ノ規則ト裁判官トノ努力ニ依ッテ、道徳的ニ調和ヲシャウト云フノデアリマスカラ、是ハ陪審制度ノ思想ヲ加味シテ出來テ居ルト考ヘル、民事ノ事案ニ付テモ陪審制度ヲ採用シナケレバナラスト云フ傾向ニナッテ居ルト云フコトハ、司法當局モ又政府モ御認メニナックト私ハ考ヘル、是ガ擴張ノ傾向ガアルト云フ事例トシテ、借地借家調停法案ヲ引用シタニ過ギマセヌガ、刑事ノ方ニ於テモ、將來此陪審法ハ大ニ擴張シナケレバナラスト云フ御考デアルカ否ヤ、大臣及次官ノ説明ニナック事ハ徹底シナイヤウニ考ヘマスガ、其點ヲ政府委員ノ口カラ承リタイ

○横田政府委員 横山君ノ再三ノ御質問ハ、詰リ現在ノ司法部ノ制度ノ上ニ、若クハ裁判官ノ裁判ノ事務取扱ノ上ニ、機関ノ全體カラ觀テ、而シテ此國民ノ民度ノ發達國情全體缺陷ガアルト認メルカドウカ、認メテ此法案ヲ提出シタカドウカト云フ御質問ノヤウニ承ルノデアリマスガ、是ハ國家カラ比較シテ見ヌト云フト、遠ニサウ云フ判断ハ出來ヌ、行政部、立法部、司法部ト云フモノ、此ハランスヲ取テ往々、獨リ司法部ニ重大ナル缺陷ガアルト云フコトヲ、政府ハ認メテ居リマセヌ、併シ立法部ニ於キマシテモ、幾多改善スカラ、大抵シテ見ヌト云フト、遠ニサウ云フ御考デアルカ否ヤ、大臣及次官ノ説明ニナック事ハ徹底シナイヤウニ考ヘマスガ、其點ヲ政府委員ノ口カラ承リタイ

○横田政府委員 横山君ノ再三ノ御質問ハ、詰リ現在ノ司法部ノ制度ノ上ニ、若クハ裁判官ノ裁判ノ事務取扱ノ上ニ、機関ノ全體カラ觀テ、而シテ此國民ノ民度ノ發達國情全體缺陷ガアルト認メルカドウカ、認メテ此法案ヲ提出シタカドウカト云フ御質問ノヤウニ承ルノデアリマスガ、是ハ國家カラ比較シテ見ヌト云フト、遠ニサウ云フ御考デアルカ否ヤ、大臣及次官ノ説明ニナック事ハ徹底シナイヤウニ考ヘマスガ、其點ヲ政府委員ノ口カラ承リタイ

○横山(勝)委員 前段ノ御答ニ付テハ、満足ハシマセヌガ、行

司法部ニ於テモ、是方改善ヲ怠テハナラヌ、此意味ニ於テ此陪審法ト云フモノガ出テ居ルノデアリマス、固ヨリ理想ノ上カラ見マシタナラバ、一々多數ノ檢事ヤ裁判官ノヤッタ事ガ、何等過チガ無イトハ言ヘナインデアリマシテ、此點ニ付テハ比較シテ改正ヲ畫シテハ居リマセヌ、現ニ大正九年ニ平沼檢事總長、大木司法大臣、ソレカラ鈴木司法次官等ノ訓示ニ依テモ、斯ウ云フ點ニ司法部トシテハ今迄缺陷ガアル、斯ウ云フ點ニ往々ニシテ缺陷ガ生ズル、此前ヲ注意シナケレバナラヌト云フコトヲ、公然トシテ訓令シテ、改善ニ努カシテ居ル次第アリマスカラ、悉ク理想的ニ完備シテ居ルトハ考ヘマセヌ、ソレデアリマスカラ、此陪審法案ト云フケレバナラヌト云フコトヲ、公然トシテ訓令シテ、改善ニ努カシテ居ル次第アリマスカラ、悉ク理想的ニ完備シテ居ルトハ考ヘマセヌ、ソレデアリマスカラ、此陪審法案ト云フノハ、今世間ニ算ヘラル、トコロノサウ云フ點ヲ一つ補正シテ行フ、サウシテ段々完備ヲ近ツイテ行ク趣意ニナルノデアリマス、ソレカラ陪審法サヘ出セバ、是ダケデ宜イカト云フト、今司法部制度ノ改革トシテ政府ノ考ヘテ居ルモノハ、差當リ是デアリマス、時勢ノ進運ニ依リ、他ニ又下ウ云フ事考ヘ出スカト云フ事ハ、今日豫言スル事ハ出來ナイ、其他世間ニ色々々非難ノアル點ニ付テハ、法律以外ノ方法ニ依リ、

司法大臣ヲ始め當局トシテ、始終注意ヲ怠ラヌノハ固ヨリデアリマスガ、今之ヲ出シテ直グ又下ウスルト云フ考ハ無イノデアリマス、ソレカラ將來此法案ノ精神ヲ段々擴張シテ行クカト云フ御尋デアリマス、吾々ノ希望ト致シマシテハ、行カト云フ御尋デアリマス、吾々ノ希望ト致シマシテハ、

ドウカ日本ノ國民ガ此新ナル試ミニ對シテ、其能力ガ之ヲ擔當シ運用スル上ニ於テ、如何ニモ之ヲ益々擴大シテ色々モノニ之ヲ用ヒテ行クト云フヤウナコトニナリタイト云フ希望ハ持ッテ居リマスガ、其經過ヲ見ナケレバ、今豫言スルコトハ出來ナイ、サウ云フ事情ノ下ニアルノデアリマス、

○横山(勝)委員 前段ノ御答ニ付テハ、満足ハシマセヌガ、其位ノ所デ宜イトシテ置キマシテ、唯最後ノ一言ハ聽キ捨テニナラヌト思ヒマス、擴張スル意思ガアルカ、擴張スペキ傾向ニアルカドウカト云フ問ニ對シテ、勿論然リト云フ御答ガアルコト、思ウタ、吾々ノ方デハ擴張シテ貰ハナケレバナラヌ、ソレハ後トデ論ジマスガ、初メテノ試ミニアルカラ、國民ガ此試ミニ對シテ諒解ヲナシ、サウシテドコマデ是ガ效果ヲ舉ゲルカ、其經過ヲ見ナケレバ、豫言ハ出來ナイト云フコトデアル、是ハ政府當局ノ意図ハドウカ知リマセヌガ、吾々人民ノ側ニ居ルモノカラ申シマスレバ、陪審制度ハ民情ノ試驗ヲスルトカ、裁判ノ練習デモヤルト云フ意味デ、試ミノ爲メ一時的ノ考ヲ以て出サシタ制度ナリトハ考ヘテ居リマセヌ、是ハ國家永久ノ必要ニ基クモノデ、苟モ國家アラン限り、即チ最初ニ私ガ申シタ如ク、又大臣カラ御演説ニモナリマシタ通り、陪審制度ハ國家制度ノ一トシテ、又司法制度ノ完備ヲ圖ル爲ニ設クリカドウカト云フコトハ絶対ノ必要ニ基イテ居ル、司法大臣ハ單ニ立憲政治ノ本旨デアルト包括的ニ説明ガアリマシタガ、私ハ先刻申上タヤウニ、陪審制度ヲ設ケルト云フコトハ、全ク民本主義ノ理想デ、ドウシテモ民本主義ニ立タナケレバナラヌ、何故ニ民本主義ガ適當デアルカ、何故ニ高唱スルカト云フト、民本主義ハ吾々ハ今日ノ人類ノ程度ニ於テ、所謂人道正義ニ合スルカラデアル、此見地カラ言ヘバ、少シノ費用カ要ラウガ要ルマイガ、陪審制度ニ缺陷ガ伴フモノトシテモ、ドウシテモ是ハ置カナケレバナラヌモノデアル、斯クスルコトガ人道ニ合シ、デアリマス、司法大臣モ立憲政治ノ本旨ノ上カラ、陪審制度ガ必要デアルト仰セニナッテ居ル、所謂陪審制度ナルモノガ、立憲政治ハ不可分狀態ニアッテ、離ルベカラザル密接ノ關係ヲ持ッテ居ルト云フコトハ、私方彼は申サヌデモ明瞭デアル、ソニデ政黨的ノ色彩、政黨的ノ思想ヲ陪審制度ノ中ニ入レテハイカヌト云フ意味ハ、政黨ニ關係ノアルモノ、政黨ニ愛憎ノ念ヲ持ツモノ、即チ政友會ガ、宜イトカ、憲政會ガ惡イトカ云フ考ヲ持ッテ居ルモノガ、陪審員トナッテ、此評議若クハ評決ノ衝ニ當ルナラバ、事實ノ認定ノ上ニ於テ、陪審制度ニ豫期シナイ不都合ナ結果ヲ生ジハシナイカト云フコトノ考慮ヲ申サレタト思ヒマス、是ハ一廉ノ疑惑ノアルコト、思ヒマスガ、吾々モ多少考慮セヌコトモアリマセヌガ、併ナガラ先刻申上ゲタ如ク、政黨ト云フモハ政黨本來ノ目的、政黨本來ノ性質ニ問ウテ見テ、決シテ排斥スベキモノデナシ、又排除スベキモノデナイト云フコトハ、申モ迄モナイトコトデアル、國家ガ之ヲ承認シ、法律

ガ之ヲ許シテ居ルノデアル、而シテ最大多數ノ黨派ガ政權ヲ持ツテ居ルト云フコトハ、最大多數ノ黨派ガ國民多數ノ上ニ立脚シテ居ルカラデアリマス、此國民多數ノ意思ヲ以テ政權ヲ左右スルト云フ思想ガ、此陪審制度ノ中ニ入ッテ、ドウシテソレガ惡イノデアリマスカ、陪審制度ハ日本全國民ノ意思ヲ集メテ審判スルノデハアリマセヌケレドモ、此地方ニ起ツタ事件ハ、此地方ノ専門的ノ裁判官デナイ、地方ノ思想家トシテノ組織ヲ以テ事實ノ認定ヲサセタイト云フノハ、此立法ノ精神デアル、而シテ其地方ノ輿論ヲ集メテ事實ノ認定ヲセシムルト云フノハ、立法ノ精神デアル、先例ヲ舉ゲテ申シマシタ如ク、一人ノ子供ガ惡事ヲシタラバ、其親戚又ハ故舊ガ裁判ヲスルノガ相當デアル、親戚故舊ガ居ナケレバ、近隣ノ人方裁判ヲスルノガ相當デアル、何トナレバ其子供ノ性質、素行等ハ父兄ガ能ク之ヲ知フテ居ル、地方ノ人が能ク知フテ居ル、是ガ目的デアル、隨テ家庭ノ輿論、町村ノ輿論ト云フモノヲ集メテ、サウシテ此人ノ事實ノ裁判ヲスルト云フコトハ、事實ノ認定ノ上ニ於テモ好都合デアルン、犯罪ノ情狀ヲ認定スル上ニモ最モ好都合デアル、ソコデ此陪審制度ハ、日本國民ノ最大多數ノ輿論ヲ集メルト云フ意思ハ、含シニ居ラヌデモ、或程度マデノ多數決ニ依ッテ、地方的ノ民情ヲ斟酌シテ裁判ヲスルト云フコトガ、此思想トナニテ居ルト考ヘル、此故ニ政友會デアラウガ、國民黨デアラウガ、憲政會デアラウガ、其政黨ニ席ヲ置ク者若シクハ、政黨ニ關係アル者、政黨ニ對シテ愛憎ノ念ヲ持ツテ居ル者ガ、此陪審員トナタ結果、陪審制度ノ上ニ政黨的ノ色彩ガ多少關係ヲ持ツト云フ事ハ、是ハ拒否スペキ事柄デナイト考ヘル、所ガ立憲政治が進ンデ來タナラバ、日本國民ハ舉ゲテ皆政黨員トナルカモ知レマセヌ、子供ヤ狂人ハ別トシテ、男女ヲ通ジテ悉ク政黨員ニナル傾向ヲ持ツテ居ルノデアル、此棒ノ集團デアルカ、政黨ト云フモノハ非立憲ノ思想ヲ有ッテ人文發達ノ衝ニ當ッテ、此立案ヲナサレタ政府委員方、陪審制度ノ上ニ政黨ト云フ色彩ヲ混入スルト云フコトハ困ルト云フ考ハ、何處カラ來ルカ、是ハ政黨ト云フモノガ、何ガ泥治ヲ運用スル上ニ於テ、善良ナル民衆ヲ集メテ居ナイ政黨ハ除外サレルカドウカ、或ハ政黨的ノ色彩ヲ帶バシメテハ居ル犯人人ノ集ツテ居ル團體デアルト云フ認定カラデナケレバ起ツテ來ナイ、此故ニ先刻ノ御發言ハ、理想的ノ憲法政策アルカ、私ハ根本ノ思想ニ立歸ツテ、考ヘテ毫モ政黨的ノ思想ト云フモノヲ陪審制度ノ上ニ顯現スルコトハ、陪審制度ニ對シテ惡事ナリトハ思ヒマセヌ、是ハ一應辯明ヲ伺ッテイカヌト云フコトカラシテ、現實ノ政黨ニ對スル御非難デアルカ、私ハ根本ノ思想ニ立歸ツテ、考ヘテ毫モ政黨的ノ思想ト云フモノヲ陪審制度ノ上ニ顯現スルコトハ、陪審制度ニ對シテ惡事ナリトハ思ヒマセヌ、是ハ一應辯明ヲ伺ッテイカヌト云フコトカラシテ、現實ノ政黨ニ對スル始メテノ試ミ云々ト云フ、此重大ナル事業ヲ洵ニ玩具デモ取

○横田政府委員 私ノ言葉ガ不十分ノ點ガアッタカモ知レ
マセヌ、横山君ノ御質問ハ、大體ニ於テ御質問ノ御言葉カラ
ヒマス、最初ノ試ミデアッタ云フコトハ、事實ガ證明シテ
居ルノデ、是ハ最初ノ試ミデアル、其法案ヲ實施シテ國民ヲ
シテ裁判所ノ事實判断ニ協力セシメルト云フ事ハ最初ノ試
ミデアル、最初ノ試ミデアリマスカラ、此試ミニ付テ、國民
ガ能ク此運用ニ堪ヘ、サウシテ之ヲ擴大スルヤウニナルコ
トヲ、當局トシテハ希望シテ居ル、斯ウ申上ゲタニ過ギマサ
又、當局ハ如何ニ希望シテモ、此運用ガ誤ラテ、多數國民ガ
寧ロ排除サレルト云フヤウナコトガ出來マシタナラバ、之
ヲ擴張セント欲スルモ能ハザルモノデアリマス、理想ハ固
ヨリ横山君ト私トハ同一デアリマスルナレドモ理想ヲ現實
ニ結付ケルノハ、當ニ實際ニ於テ效果ガアルト云フコトヲ
示サナケレバナラヌ、根本ノ思想ガ正義人道ニ立脚シテ居
ル、人類普遍ノ道德性ニ立脚シテ居ルカラト言ッテモ、利害
相半バズル以上ハ、害ガ多イケレバ之ヲ實行スルコトガ出
來マセヌ、當局トシテハ之ヲ擴大スル意味ニ於テ、之ヲドウ
カ國民ニ此運用ガ旨ク行ツテ、時代モ之ヲ迎ヘルヤウニアリ
タイ、斯ウ云フ趣意デアリマスカラ、當局トシテハ擴大ノ希
望ヲ有ツテ居ル、唯何時ドウ云フ風ニ擴大スルカト云フコト
ノ豫約ハ、今日ニ於テハ出來ナイモノデアルト云フ趣意デ
アリマスカラ、言葉ハ少し簡單過ぎタカモ知レマセヌガ、大
體ニ於テ御尋ノ趣意ニ合致シテ居ルモノト私ハ考ヘマス、
他ノ點ハ馬場政府委員カラ申上ゲマス

○馬場政府委員 先刻私方陪審員ノ選定ニ付テ抽籤主義ヲ
執タノハ、或ハ恐ル政黨の色彩ガ陪審制度ノ上ニ現ハレル
ト云フコトハ面白クナイト云フヤウナ意味ヲ申シタノデア
リマス、私ハ此政黨ニ對スル諒解ニ付テ、恐ラクハ横山君ト
見解ヲ異ニシテ居ラヌト思フ、私ハ今日ノ立憲政治ニ於テ、
政黨ノ必要ナルコトヲ無論認メテ居ル、而シテ政黨ハ其主
義政策ニ依テ、其主義方針ニ依テ政黨ヲ形造ツテ居ル、是
ガ即チ政黨ノ理想デアル、而シテ無論政黨員ガ陪審員ニナ
ルト云フ事ガ不適當デアルト云フノデハナイ、併ナガラ今
日ノ政黨ノ狀態ニ於テハ、其政黨ガ主義政策ノミニ依テ必
ズシモ進止行動シナイ、或ル場合ニ於テハ、誤ダル政黨員
等ガアッテ、或ハ感情或ハ思考ト云フ方面カラ、間違、タコト
ヲ裁判ノ上ニ移スト云フヤウナコトガアッタナラバ、是ハ又
恐ルベキ弊トナルノデアリマス、御承知ノ通り、先達總理

大臣モ言ハレテ居シタヤウテアリマスガ、政黨ノ發達シタルモノニ於テハ、唯所謂中央ノ政治ニ於テ、政黨ハ其政策ニ依テ争ッテ居ルノデアリマス、ソレガ政黨ノ理想デアル、併ナガラ政黨未ダ發達セザル時代ニ於テハ、或ハ政黨員ガ多少他ノ政黨ニ對スル感情問題ト云フヤウナコトニ依テ、間違ヲシナイトモ限ラナイ、サウ云フ事ガ若シックナラバ、立憲政治ノ本義ヲ察ルモノデアルケレドモ、裁判ハ何モ政黨ノ政策ニ依テ判断セラルベキモノデハナイ、殊ニ事實ノ判断ニ付テ、政黨ノ意思ヤ都合ニ依テ左右セラレルト云フコトハ、何等無イノデアリマス、故ニ若シ誤タル政黨員デモアツテ、是ガ事實ノ判断ノ上ニ於テ、多少他ノ政黨ノ者ニ付テ、或ハ憎惡ノ念ニ依テ判断ヲ誤ルト云フコトハ、ソレハ今日ノ時代ニ於テハ、少クトモアル、サウ云フヤウニ懸念致シタノデアリマス、其懸念ヲ全ク取去ルト云フコトハ、極メテ今日ノサウ云フ弊害ノアリ得ル時代ニ於テハ、之ヲ慎シム方法ヲ取ツタ方ガ宜カラウ、斯ウ云フ趣意デアッタノデアリマス、是ハ決シテ事實ニ間違ッテ居ルトカ、或ハ政黨員ガ陪審員ニナックナラバ、必ズ不當ナコトヲスルト云フコトハ毛頭思ツテ居リマセヌ

信念ノ下ニ發案サレタト、私ハ見ルノデアリマス、ソレヲ法制局長官トモアルベキ人ノロカラ、最初ノ試ミデアル、若シケナカツタナラバ廢メル、丁度居酒屋カラ酒ヲ取寄セテ飲ンデ見テ、悪カツタナラ返スト云フヤウナ感想ヲ、此神聖ナル議案ノ上ニ試ミラレルト云フ事柄ハ、國民ヲシテ此陪審法案ニ對スル神聖ノ度ヲ甚ダ稀薄ナラシムル考ヘマス、是ハ餘程危険ナル言葉デアルト考ヘル、デアルカラモウドコマデモ此法律ハ使用スルノデアル、即チ政府當局ニ於テダケレドモガ、我國ニ於テハ弊害ガ無イモノト認メル、即チ官民努力ニ依テ、弊害ナカラシムルト云フ信念ノ下ニ、セラル、デアラウト思ヒマスケレドモガ、之ヲ大日本帝國書々ハ之ヲ修正シタイト思ヒマスカラ、試ミルト云フ文字ヲ少シ變ヘテ、ドコマデモ之ヲ延長スルヤウニシタイ、是ハ私ノ希望デアリマス、次ニモウ一ツ伺テ置キタイ、尙ホ政府委員カラ言明ヲ得テ置キタイト思ヒマスノハ、此案ハ司法大臣ノ言明セラレル處ニ依ルト、甚ダ言葉方抽象的デアッテ能ク分リマセヌガ、今申シタヤウナ發案ノ根據デアルト考ヘマス、尙ホ是ハ人民ノ要求デアルト私ハ認メル、進歩發達シタル、即チ理由書ノ冒頭ニアル「人文ノ發達國運ノ進歩ニ鑑ミ刑事事件ニ付陪審ノ制ヲ樹テ司法制度ノ完備ヲ圖ルハ最モ時宜ニ適スルモノト認ム」斯ノ如キ事情ガ我國ニ於テハ存在シテ居ルノデアッテ、日本國民ノ最大多數ノ者ガ、此法制ヲ要求シテ居ルノデアルト云フ、根據ニ於テ、發案ヲサレ、提案サレタモノト認メマスガ、政府ハ我ガ人民ノ要求如何ニ拘ラズ、斯ノ如キ法律ヲ施行スルワガ宜シト御考ヘニナツテ御居デナノデアルカドウカ、即チ人民ノ思想、人民ノ思想ト云フモノヲ毫モ考慮ノ中ニ入レテ置カナカツタノデアリマスルカドウカ、若シ人民ノ思想、人民ノ考ト云フモノヲ考慮セラレタノナラバ、一體此法案ナント云フモノハ將來ニ於テ大擴張ラスベキモノニアルト云フコト、深イ考ガナケレバナラスト云フ前ノ質問ニ關聯シタ疑問ガ起テ來ルノデアリマスノデ、重ネテ承テ置キタイ、次ニ此法案ノ末文ニ付テ質問ヲ致シテ置キマス、末文ニ「本法施行前公判期日ノ定リクル事件ニ付テハ本法ヲ適用セス」トアッテ、遡及效ノ效力ヲ制限致シテ居リマスルガ、將來ニ於テ此陪審制度ノ惠澤ヲ蒙ル者、或ル程度マデ制限ヲスルト云フコトハ、現下ノ事情ニ照ランテ必要デアルカモ知レマセケレドモ、今司法制度ノ完備ヲ圖ル爲ニ地方制度ノ時弊ト云フモノヲ斟酌シテ、此理想的ノ國民的ノ大法典ヲ實施セラレルト云フノデアリマスルナラバ、之ヲ普ク現代ノ人民ニ與ヘテ、其惠澤ニ浴セシメタイト云フ

ノガ私ノ考デアリマス、ソコデ本法施行後ニ於キマシテ起ツタ事件ニ付テハ、如何ナル制限ヲナサレテモ宜シノデアリマスルガ、本法施行前ニ起ツタ事件ニ關シ成ベク此法案ト云フモノヲ擴大シテ、成ベク廣ク適用シテヤルト云フノガ、私ハ立法政策ノ上ニ於テ當ヲ得タルモノデハナイカト思ヒマス、手續法ハ、規定以前ニ週テ之ヲ適用スルト云フノガ、今日迄ノ立法ノ例デアル、又立法ノ主眼デアルヤウニ私ハ承ッテ居リマス、是ハドウ云フ譯デ此「本法施行前公判期日ノ定リタル事件ニ付テハ本法ヲ適用セスト」云フ意味ラ御書ギニナツタノデアリマスカ、區々タル法文ノ内容ニ照シテ、内容ノ法文ニ斯ウ命ジテアルカラト云フノデナク、法文ヲ離レテ、根本ノ御答ヲ願ツテ、成ベク廣ク適用シテ、人民ニ此法ノ恩澤ニ浴セシメタイ、サウ云フ私ノ意見ガ間違ツテ居ルカドウカ、即チ本法施行ノ時、遡及效ノ效力ヲ生ゼシメル途ハナイカト云フコトヲ承リタイ

○林政府委員 横山君ノ最後ノ御尋ニ付テ御答シマスガ、此法案ニ於ケル、公判期日ノ定メタ事件ニ付テハ、本法ヲ適用セズトシマシテ理由ハ、本案ノ各條ニ明カナル通り、公判期日ト云フモノハ、突如トシテ定マルモノデアリマセヌ、準備手續ニ付テ色々ノ法則ガ設ケラレマシタ、ソレガ陪審ニ付スル事件ト然ラザル事件ト大ニ異ッテ居リマス、ソレデ一般法ニ從ツテ準備手續ヲ爲シ、既ニ公判マデ運ンデ居ルノニ、ソレヲヤリ直シテ陪審法ニ依ツテ準備手續ヲ運ンデヤルコトニナリマスノハ、實際上適當デアルマイ、是ダケノ考力拉斯ノ如ク致シマシタ次第デアリマス

○横山(勝)委員 只今最後ノ林政府委員ノ御話ノ事ハ、矢張自分ニ拘ヘタ自分ノ型ニ拘束サレルカラ、サウ云フ議論ガ起ル、醫ヘテ見レバ辯護士法ガ出來タ時分ニ、前ノ代言人ノ資格ヲ持ツテ居ル者ニ、辯護士法ヲ適用シテ資格ヲ與ヘタ、ソレト同様デ地ニモ有マス、法律ヲ行フ際ニ當ツテハ行フ以後ニ起ツタ現象ニ對シテ此法律ヲ嚴格ニ適用スル事ハ結構デアルケレドモ、之ヲ行フ場合ニ於テハ、少々資格ノ上ニ於テ不完全ナモノガアツテモ、既得ノ權利ヲ擁護スル上ニ於テハ國民ノ感情ヲ融和スル上ニ於キマンシテ、適用スル事ガ必要デアル、此陪審法モ、其行フ際ニ於テ縱令一面ノ公判手續ガ定メテアツテモ、ソレヲ取消シテ手續ヲスルコトハ、何程ノ手數ガ掛ル、例へバ原總理大臣ヲ暗殺致シタ中岡民一ノ事犯ノ如キモ、國民ノ感情カラ申シマスレバ、此法案ガ行ハレタナラバ、一回ヤ二回ノ公判ハ開ケテ居ツテモ、初メテノ事業デアルカラ、此事業ニ適用シテ、サウシテ國民ノ思想ニ適合シ、國民ノ感情ヲ和ゲルヤウニシタイ、ソレヲ自分分テ色々ナモノヲ拘ヘテ、ソレニ當嵌ラヌカラ適用ガ出來ナイ、ソレハ所謂眼孔ノ小サイ官僚的ノ思想デアルト云フコトヲ申シテ置キマス、是ハ林君ノ立案デアリマスマイケレドモ、サウ云フ思想ガアルカラ、サウ云フコトガ出来ル、ナゼ斯ク立派ナ法律ガ出來ルナラバ、早ク國民ニ適用シタイト考ヘラレナナイカ、其深切心其温情ノ無イコトヲ遺憾ニ思ヒマス、ソレカラ最後ニ法制局長官ニ一言致シテ置キマス矣張ドウモ官吏ニナラレテカラ、少シク頭ガ收縮シテ來テ狹クナッタ、ドウセ法制局ノ二階ニ居ルト、民衆ノ側ガ窓カラ見エナイト思ヒマス、國民的ノ要求ガアルカナイカ分ラスト仰シヤル、ソレガ間違ツテ居ル、政友會ノ松田源治君ガ、何年前ニ陪審法ヲ唱ヘラマシタカ、ソレハ御承知デアラウ、民衆ノ要求ノ無イモノナゼ十數年前ニ政友會カラ御出シニナッタ、ソレデ理窟ヲ言フコトヲ止メテ、例ヲ以テ申シマス、子供ガ泣イテ居ル、腹ガ減ツテ泣イテ居ル、其場合ニ其子供一タシテ愛情ヲ持ツテ居ル母親ガ「ビスケット」ヲ與ルコトモ、牛乳ヲ與ヘルコトモ、母親ノ鑑識ニ依ツテ一任シテ宜シイ、

其時分ニ牛乳ヲ與ヘル「ビスケット」ヲ與ヘル、子供ハ個々ニ牛乳個々ニ滋養分ヲ要求致シテ居ルノデナイケレドモ、慈母ガ自分ノ愛情ニ依リテ、牛乳ヲ與ヘルコトヲ適當トシテ與ヘテ居ル、今ノ人民ハ悉ク法律ノ學問ヲシタモノデハアリマセヌカラ、陪審制度ガ必要デアルト云フ言葉ヲ知ラヌカラ、陪審制度ヲ要求シテ居ラヌ、併ナガラ前來中上ゲル通り、裁判所ニ缺陷ノアルコトハ、明治二十三年以來動カスベカラザル事實デアリマス、人權蹂躪ガアルト云フコトヲ、人民ノ側カラ常ニ司法省ニ向ヒテ續々ト此問題ヲ提供シテ來ル、陪審制度ヲ希望スルト云フコトハ言ハヌケレドモ、此缺陷ヲ補フテ吳レト云フ要求ヲ致シテ居リマス、陪審制度ト云フ言葉ハ知ラヌカラ要求シナイ、併ナガラ制度ノ缺陷ヲ補フ或ルモノヲ要求シテ居ルカラ、此ノ如キ制度ガ提出ニナック、其故ニ陪審制度ノ要求ノ個々ノ聲ガ耳ニ響カナカラタナラバ、人民ハ陪審制度ノ性質ニ相當スルモノヲ政府ニ向ヒテ要求シテ居ルト云フコトヲ、人民ニ代ヒテ申シテ置キマス、人民ガ陪審制度ヲ言ハナケレバ、陪審制度ノ要求ヲシテ居ルカドウカ分ラヌ、ソレハ政治家デナイ、ソレデハ日々車ヲ挽イテ、二十貫カ三十貫ノ物ヲ運ブ人ト毫モ變ラヌ、人民ノ言ハザル所ヲ探求シテ、サウシテ應急ノ政策ヲ執ルコトガ政治家ノ任務デアル、人民ハ陪審制度ヲ要求シテ居ルモノデアルト云フコトヲ申シテ置キマス

○横田政府委員 本案ノ提出ハ國家多數ノ要望カラ出タモノデアルカドウカ云フ御尋ニ對シテ、國民多數ガ具體ニ本

案ヲ要求シテ居ラヌ、國民多數ノ要望ヲ代表スルモノハ在野法曹デアラウ、即チ在野法曹ノ具體的意見ヲ政府ハ取ラ

ナケレバナラヌト云フ意味ニ申上ゲタノデアリマシテ、國民全體ノ背後ニ在ル聲ヲ無視スル意味デナイン、横山君ト言葉ガ達ヒマスガ、大體一致シテ居リマス、ドウカ私ノ將來ノ

政治的生命ヲ縮メナイヤウニ願ヒマス

○作間委員 私ノ第一ノ質問ハ、此法案ガ愈々司法當局デ

御起草ニ相成ル、サウ云フコトニ相成リマスル前ニ、世間デ

色々ノ說ガ行ハレテ居タノデアリマス、ソレハ司法當局ハ

眞ニ陪審制度ヲ好ンデ、喜ンデ且ツ進ンデ之ヲ制定セラル、誠意ガアルノデアラウカ、只今司法大臣ノ御答辯ニ依リマス

スレバ、稍々其思召ガアルト云フコトガ表面カラハ伺ハレルノデアリマス、而シテ又山内次官其他ノ方々ガ、矢張大臣

ト同様ノ御考ヲ懷イテ居ルコト信ズルノデアリマス、併

ナガラ世間ノ取沙汰ヲ聞キマスルト、滿更無理ノナイ點ノアルコトヲ認メルノデアリマス、何トナレバ司法官ハ元來現行ノ司法制度——裁判制度ト云フモノヲ自ラ不滿トハ見テ居ラレナイ、自ラ絶対ニ信仕ヲ拂ハレテ居ルモノト思ハレマス、又サウナケラヌノデアリマス、然ルニ今迄ハ

自分ガ專ラ其職ニ任ゼラレテ居タノガ、今度ハ國民ガ其裁判ニ關與シテ參ルト云フコトニナリマスレバ、裁判官自身ニ取りマシテハ、眞理ノ上カラ申シマシテモ、感情ノ上カラ申シマシテモ、餘り宜イ心持ハ致シマスマイト想像サレルモノデアリマス、私ハ此道ガ始メテ世間ニ公ニサレタトハ申シマシテモ、餘り宜イ心持ハ致シマスマイト想像サレル葉ヲ知ラヌカラ、陪審制度ガ必要デアルト云フ言葉ヲ知ラヌカラ、陪審制度ヲ要求シテ居ラヌ、併ナガラ前來中上ゲル通り、裁判所ニ缺陷ノアルコトハ、明治二十三年以來動カスベカラザル事實デアリマス、人權蹂躪ガアルト云フコトヲ、人民ノ側カラ常ニ司法省ニ向ヒテ續々ト此問題ヲ提供シテ來ル、陪審制度ヲ希望スルト云フコトハ言ハヌケレドモ、此缺陷ヲ補フテ吳レト云フ要求ヲ致シテ居リマス、陪審制度ト云フ言葉ハ知ラヌカラ要求シナイ、併ナガラ制度ノ缺陷ヲ補フ或ルモノヲ要求シテ居ルカラ、此ノ如キ制度ガ提出ニナック、其故ニ陪審制度ノ要求ノ個々ノ聲ガ耳ニ響カナカラタナラバ、人民ハ陪審制度ノ性質ニ相當スルモノヲ政府ニ向ヒテ要求シテ居ルト云フコトヲ、人民ニ代ヒテ申シテ置キマス、人民ガ陪審制度ヲ言ハナケレバ、陪審制度ノ要求ヲシテ居ルカドウカ分ラヌ、ソレハ政治家デナイン、ソレデハ日々車ヲ挽イテ、二十貫カ三十貫ノ物ヲ運ブ人ト毫モ變ラヌ、人民ノ言ハザル所ヲ探求シテ、サウシテ應急ノ政策ヲ執ルコトガ政治家ノ任務デアル、人民ハ陪審制度ヲ要求シテ居ルモノデアルト云フコトヲ申シテ置キマス

○横田政府委員 本案ノ提出ハ國家多數ノ要望カラ出タモノデアルカドウカ云フ御尋ニ對シテ、國民多數ガ具體ニ本

案ヲ要求シテ居ラヌ、國民多數ノ要望ヲ代表スルモノハ在

野法曹デアラウ、即チ在野法曹ノ具體的意見ヲ政府ハ取ラ

ナケレバナラヌト云フ意味ニ申上ゲタノデアリマシテ、國民全體ノ背後ニ在ル聲ヲ無視スル意味デナイン、横山君ト言葉ガ達ヒマスガ、大體一致シテ居リマス、ドウカ私ノ將來ノ

政治的生命ヲ縮メナイヤウニ願ヒマス

○作間委員 陪審制度ノ應用ハ、私ハ單ニ罪トナルベキ事

實ノ有無ヲ認定スルニ止ラズシテ、即チ從來ニ於キマシテ

ノモ、罪トナルベキ事實アリトシテモ、其情狀ニ付キマシテ

トヲ欲スルノデアリマス、此事ニ付テ個人ノ心情ニ付テ申

ル者モアラタノデアリマス、固ヨリ途上ノ風説デアリマシ

テ、根據ヲ有シテ居ル說デハアリマセヌケレドモ、一般ノ裁判官——司法當局ノ一部ノ極ク少數ノ方ノ考カラ想像ヲ致

シマスレバ、強チ無理ノナイ觀察ト思ヒマス、而シテ又之ニ

付テハ、法制審議會ニ於テ、或ル一部ノ在野法曹ハ力説且

ツ努力シテ居タニモ拘ラズ、在朝法曹側ノ御意見ガ、兎角

足並ガ捕ハナイ、而シテ又大學教授其外法曹界ノ元老トモ

目セラルベキ人々ノ中ニモ、ドチラトモ付カズ、不離不卽ノ

狀態ヲ取ラレテ審議ヲ繼ケラレタト云フ噂サモ承テ居リ

マス、今此法案ノ性質ヲ目前見マシテ、而シテ司法大臣ガ彼

ノヤウニ御懇切ナル、熱心ナル提案ノ理由ヲ御説明ニナリ

マシタガ、其邊ノ事情ヲ長く間傳ヘ承テ居リマスル者ト致

シマシテハ、大臣ノ御言葉ガ、果シテ全ク衷心カラ出デラレ

タモノデアラウカ——或ハ大臣ハ左様ニ思召シテ居ルニ相

違ナイケレドモ、一體ニ裁判官ノ多數竝ニ司法當局ノ全體

ガ、矢張心ノ中カラ司法大臣ノ御説ト同ジヤウナ御意見ヲ

持テ居フル、ノデアラウカ、此案ヲ出サレマスル以上ハ、

無論政府カラ進ンデ喜ンデ實行ヲ期シタイモノデアル、ソ

レヲ期シタイ爲ニ提案ヲシタノデアルト云フ御答辯ガアル

シテモ、其心情ト行ヒニ於テ、寧ロ大ニ一般ガ之ヲ是認スル

ヤウナ行爲ガアタ場合ニハ陪審制度ハ之ヲドウスルノデ

アルカ、單ニ罪ノ有無ヲ認メル丈ケナラバ、其意味ガ甚ダ乏

シテモ、其心情ト行ヒニ於テ、寧ロ大ニ一般ガ之ヲ是認スル

アリマス、從テ又ソレガ重大問題トナルノデアリマス、然ルニ原案ハ此點ハ認メテ居ナイ、英國及獨逸ノ法制ヲ調べテ見マスルト、豈ニ圖ランヤ、單ニ事實ノ有無ヲ問題トシテ居ナイ、刑ノ量定、罪狀ノ酌量ヲモ大ニ問題トシテ居リマス、鈴木君ノ御論ニナリマシタ通り、英國ノ法制ニ於テ宥恕申請ヲ許シテ居ル、又佛國ノ法制ハ陪審員多數ノ意見ニ依レバ、被告人ノ爲ニ酌量減刑ノ情狀アルモノカ否ヤト云フコトヲ、裁判長ガ必ズ陪審員ノ評決ニ付セナケレバナラヌ事ニナツテ居ル若シ裁判長ガ其事ヲシナイ場合ニ於テハ、其裁判ヲ無效トスル規定ガアル、是ニ於テカ私ノ寡聞ナル結果デアリマスケレドモ、曩ニ陪審制度ハ單ニ罪タルベキ事實ノ有無ノミヲ決スルモノト、誰ガ教ヘタカ知ラヌガ説キ聞カサレタ、又サウ云フ説ガ専ラ流布セラレタコトヲ私ハ認メルノデ、其説ノ中心ハ矢張司法當局邊ニ在ツタノデハナカラウカト今ヨリ思ヒ及ブノデアリマス、現ニ司法當局ハ、實際問題トシテ大切且ツ數多ク起ルベキ問題ニ付テ閑却セラレテ、日本ニ初メテ出來ル陪審ハ、原審ニ付テ單ニ事實ノ有無ノミヲ調ペルニ止マルトセラレタノハ、私ハ衷心カラ遺憾トスル所デアッテ一面ニ於テ政府委員ハ本案ハ單ニ罪トナルベキ事實ノ有無ダケヲ評決ニ付スル説明サレナガラ、唯一點之ニ矛盾スルヤウナ規定ヲ存シテ居ルノデアリマス、即ち第九十七條ニ依リマスルト、裁判長ハ刑ノ輕重刑ノ減免ノ事由タル事實上ノ主張ヲモ、評議ニ付スルモノデアル見ラレマスガ、ザウナリマスルト云フト、専ラ罪ト爲ルベキ事實ノ有無ヲ評議ニ付スルノデアルト言ハレタ點ト矛盾スル、是ニ於テカ結局本案ハ専ラ罪ト爲ルベキ事實ノ有無ノ認定ヲノミ陪審員ノ評決ニ付セシメントスルモノデアルカ、若シサウデアルトスレバ、實際上極メテ效果ノ乏シイモノトナル、而シテ又英國、佛國其先進國ノ重キヲ措イテ居ル部分ヲ無視シテ規定セラレタコトニナルノデアルガ、政府ハ果シテ左様ノ意見デ此陪審法制ヲ起草セラレ、又サウ云フ解釋ヲ持ツテ居フル、ノデアリマスカ、此點ハ私ハ特ニ最モ詳細且明確ニ御説明ヲ承テ置キタイト思フノデアリマス

○林政府委員 本案ハ御尋ノ如ク、陪審員ノ權限ハ犯罪ノ構成要要素タル事實ノ有無ヲ評議シテ之ヲ答申スルニ止マルノデアリマス、刑ノ量定等ニハ關係無イノデアリマス、陪審員ノ權限ヲ何處迄ニスベキカハ問題デアリマシテ、外國デモ今日色々タト論ガアリマス、陪審員ノ關係スベキ主タル事スル點デアリマス、唯法定刑以下ニ課スルノヲ適當トスル柄ハ、國ニ依ツテ主義ガ違ヒマスガ、事實ノ認定ハ陪審員ガ爲ス所モアリ、罪責ノ陪審員ガ決スル主義トナツテ居ル所モアリマシテ、矢張主トスル所ハ犯罪構成ノ事實ノ有無ニ關

ト云フヤウナ特別ノ事情アルトキニ、陪審員ガ意見ヲ述べルコトハアリマスガ、刑ノ量定ニ付テ、一々陪審員ガ關係スルコトハ私ノ知ル所デハゴザイマセヌ、又假令外國ノ法制ハドウナツテ居リマシテモ要スルニ裁判ノ中デ一番大切デアツテ、利害關係ノ大ナルノハ何デアルカト言ヘバ、申スマデモナク犯罪アルカ否ヤノ點デアリマス、此重要ナル點ニ付テ、國民ノ中カラ出マシタ所ノ陪審員ガ意見ヲ述べルト云フコトハ、是ハ洵ニ大切な事デアラウト思ヒマス、ソレヲ何處マデ擴ゲルカト云フコトハ、餘程考慮シナケレバナラスト考ヘマス、本案ニ依ツテ始メテ我國ニ陪審法ヲ行ハレコトニナルノデアリマスカラ、陪審ノ範圍等ニ付テモ餘程考慮致シテ居リマス、ソレト同ジャウナ考ニ依リマシテ陪審員ノ評議スヘア事柄ノ範圍ト云フモノヲ、犯罪構成要素ノ事實ノミニ止メル、斯ウ云フ趣意デアリマス
○作間委員 ソレダト云フト、全ク私ハ衷心カラ遺憾ヲ感ズルノデアリマスガ、私ノ言葉ノ使ヒ方ガ意餘リテ言足ラズデ、少シク其越旨ガ法律的ニナッテ居リマセヌデアリマシタカラ、今一應之ヲ補テ置キマス、私ノハ特ニ刑ノ量定ヲ陪審員ノ評決ニ付スベシト云フ意味デハ勿論ナインデアリマス、ソレデハ事實ノ認定以上ニ裁判ニ深ク關係シ、自ラ裁判ヲ爲スト云フ議論ニ陥ルノデアリマスカラ、ソレヲ申スノデハナインデアリマスガ、事實ノ認定デモ、罪トナルベキ事實ノ有無ヲ認定スルノデアリマスガ、情狀ヲ酌量スベキ、或ハ加重スベキ原因デアル事實其事實ノ認定ニハ一切觸レルコトガ出來スト云フコトデアリマスルガ、即チ情狀タル事實ハ、全ク評議ノ目的ニ相成ラヌト云フ御見解ヲ飽迄御執リニナルノデアリマス
○林政府委員 只今ノ御尋ノ點ハ、本案ノ趣意ハ全ク其通りデアリマス、サウシテ先程一寸中残シシタガ、九十七條ノ第二項ニ「刑ノ加重減免ノ原因タル事實ノ上ノ主張アリタルトキ」云々トアリマスノハ、是ハ陪審員ニ於テ之ヲ主張シタト云フ意味デハアリマセヌ、被告人ナリ辯護人ナリ、其他訴訟關係人ナリガ、訴訟手續ノ上ニ於テ之ヲ主張シタ場合ニハ、判決ニソレラ判斷スベシト云フ意味デアリマスカラ、少シモ此條項ガ矛盾スルコトハナイ次第デアリマス
○作間委員 第九十七條ノ解釋ハ既ニ明ニナリマシク、所ガ其レナラバ何故ニ本案ハ英國ノ法制竝ニ佛蘭西ノ法制、今丁度佛蘭西ノ法制ヲ開ケテ居リマスカラ申上ゲマスガ、其第三百四十一條ニ「陪審員ニ對シ有罪ト認ムル被告人ノ一人又ハ數人ノ爲メ酌量減輕ノ情狀アルモノト陪審員ノ多數ガ恩料スルトキハ左ノ言辭フ以テ之カ中立ヲ爲ス可キコトヲ告グ可シ此規定ニ背クトキハ裁判ヲ無效トス、其言葉ハ何デアルカト云フト」陪審員多數ノ意見ニ依レバ被告人ノ

ノ爲ニ酌量減輕ノ情狀アリ」此事ヲ裁判長方陪審員ノ評決ニ付セナケレバナラタ、サウシテ其事實ノ認定ヲ聽カナケレバナラヌ、若シ之ヲ聽カナケレバ、其裁判ハ無効ニルトマデ規定サレテ居ルノデアリマス、ソレハ成程事業其モノカラ見マスレバ、罪トナルベキ事實ノ有無、犯罪ヲ構成すべキ事實アリヤ否ヤハ、勿論事實デアリマスケレドモ、之ヲ世間一般カラ申シマスレバ、罪ノ有ルカ無イカ分ラヌヤウナ問題ハ、全ク極少數ノモノニ止ルノデアリマス、其有罪無罪ノ分ラヌモノハ、新聞ニ大ニ書立テラレルヤウナ、世間ノ注意ヲ惹クヤウナ問題許リデアリマシテ、多クハ罪トナル事實ハアルケレドモ、其事實ニ付テ輕タ罰スペキカ、重ク罰スペキカ、特別ノ事情ガ有ルカ無イカ、此點方裁判所ニ於テ多ク争トナル問題ニナルノデアリマス、其點ヲ全ク無視セラレ、又閑却セラレテ此法案ガ出來タノデ、實際ニドレ程ノ效果ガアリマセウカ、世間ニ所謂此陪審法案ヲ骨抜陪審法制定ト申シテ居リマセヌデシタガ、只今政府委員ノ明確口ニハ共鳴シテ居リマセヌデシタガ、只今政府委員ノ明確ナル御答辯ヲ承ルニ及ンデ、新ニ茲ニ骨抜陪審案ト云フコトニ共鳴致サナケレバナラスト云フコトヲ悲ム次第デアリマス、而モ歐米先進國ノ立法ニ準據セラレナカッタト云フコトガ本案ノ特徵デアルト、斯様ニ政府委員ハ仰セラレマスケレドモ、斯ウ云フヤウナ國民ナリ又ハ一般裁判ノ爲ニ甚ダ重大ナル關係ノアル問題ヲ除外セラレテ、ソレガ何デ特徵ニナリマセウカ、特徵ト申スノハ、多クノ先進國ノ立法ヲ參照サレテ、而シテソレガ裁判ニ害アリ、國民ニ害アリト云フ點ヲ除カレテ、而シテ利益アリ必要アリト云フモノヲ採ラレルノガ、即チ長ヲ採り短ヲ捨て、而シテ採ッタノガ我國ノ特色トモ謂ハレマセウケレ共、サウ云フヤウナ、一般ニ有利デアリ、一般ニ必要デアル問題ヲ全然除外セラレテ、而シテソレガ我國ノ陪審制度ノ特徵トハ、何ノ面目ガアッテ仰セラル、コトガ出來ルカ、此點ニ付テハ、是レ以上ハ意見ノ相違ニナリマセウガ、唯何故ニソレヲ除カレマシカ、而シテ此私ノ申スヤウナ法制ハ、英國ヤ、佛蘭西ヤ獨逸ニハ無イノデアリマスカ、ソレヲ説明ヲ願ヒタイ、若シ有リトスレバ、ソレヲ我國ニ除カレタノハ、ドウ云フ理由ニ基クノデアリマスカ、ソコヲ承リタイ、私ハ横山君ノヤウニ總テノ點ニ付テ激シクハ申シマセヌケレドモ、此點ダケハ全ク私ハ口ヲ極メテ申上ゲザルヲ得ナイノデアリマス、モウ一度政府ノ所見ヲ承リタイ

ノ經驗ニ依リマスルト、ソレハ事實ニ反スルト思フ、事實ノ有無ガ問題デアリマシテ、是ガ爲ニ苦慮スルコトガ少クナインデアリマス、ソレハ裁判ニ經驗ノアル者ノ多ク認メルル所デアラウト思ヒマス、ソコデ事實ノ有無ノ問題ガ、結局根本ノ重要ナル問題デアリマスカラ、其點ニ於テ陪審員ノ評議ヲ求ムルト云フコトガ必要デアルト思フ、併ナガララ其以外ノ事柄ニ付テハ、今日ノ事情ノ下ニ於テハ、陪審員ノ權限ヲ其處迄擴グナイコトガ適當デアラウ、斯ウ考ヘテ、居リマス、此陪審員ノ權限ニ付テハ、餘程問題ガアリマスアリマス、是ハ餘程攻究ヲ要スルト思フノデアリマス、ソコ外國ノ法制モ一致シテ居ル譯デハアリマセヌ、全クサウ云フ問題ニ付テハ、陪審員ガ關係ガ出來ナイ法制モアルノデアリマス、是ハ餘程攻究ヲ要スルト思フノデアリマス、ソコデ本案ニ於テハ、今日ノ程度ニ於テハ、此程度ニ止ムルノガ適當デアラウ、斯ウ云フ考デアリマス
○作間委員 英國獨逸及佛蘭西ハ如何ニナッテ居リマスルカ、ソレヲ一シ御尋シマス
○林政府委員 今此處ニ外國ノ法規ヲ持ツテ居リマセヌカラ、明確ニ御答スル譯ニ行キマセヌガ、英國及佛國ニ於テハ、先程御尋ノヤウナ法制ニ大體ニナッテ居ルト考ヘマス、若クハ獨逸ノ現行法デハ陪審員ハ主トシテ罪責ノ問題ヲ決シ刑罰ニ關スル問題ハ裁判官ガ決スル、而シテ刑罰ニ影響スル特定ノ事項ハ、陪審ニ掛ケル、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、獨逸ノ草案ヲ作ルニ付テ、其點ニ付テ大ニ學者實際家間ノ議論ガ有ダト、斯ウ云フ事ニ記憶シテ居リマス、一般ニ刑ノ量定ノ問題ヲ陪審ニ掛ケル國ハアリマセヌ
○作間委員 次ニ御尋ヲ致シマスノハ、被告人ガ公訴事實ヲ認メタトキハ陪審ノ請求ヲ爲スコトガ出來ナイ、若クハ陪審員ニ付カナイト云フ起旨ノ規定ガ原案ニ存シテ居ル、而モソレハ公判準備ノ手續ニ於テモ、——一般ノ公判手續デナクシテ、公判準備手續ニ於テモ、被告ガ公訴事實ヲ認メルトキハ、陪審ヲ許サスト云フコトニナッテ居リマス、表面ノ理窟カラ言ヘバ、成程被告自ラ公訴事實ヲ認メテ居ルノデアルカラ、ソレニ陪審ヲ許ス必要ハナイ、ソレハ面倒デアル、國家ノ爲メカラ言ッテモ、甚ダ手數ガ掛リ、費用ガ掛ル、必要ノ無イコトデアルト云フ議論ガ立ツデアリマセウ、併ナガラ私ハ實際ニ於テ、被告ガ公訴事實ヲ認ムルト云フコトヲ司法裁判官ガソレヲ認メルト云フコトハ、洵ニ唯表面ノ理窟ノヤウニハ參ラヌノデアリマス、實際問題トシテ、多クノ刑事問題、裁判事件ガアリマシタ際ニ、裁判官ガオ前ハ否認シタリスルヤウナ申立テラスルノガ、實際ノ状況デアル、又ソレガ被告入ノ心情心情ニ照シテ、相當ト認メテヤラ

ナケレバナラメノデアリマス、私ハ検事ノ公訴事實ノ通り、全部其儘御認メヲ致シマスト言フコトハ、實際ニ於テ其例ガ稀ナノデアリマス、被告人ガ單ニ公訴事實ヲ認メルト云フコトハ、ドウ云フコトヲ以テ標準トサレルノデアリマセウカ、若シ大體ハ認メルケレドモ、或部分ダケハ認メヌ、斯ウ云フ問題ガ實際ニ於テハ出ル、又被告ガ公訴事實ヲ認メルト云フコトハ、能ク裁判官側ノ方カラハ、サウ云フコトヲ御感ジニナル場合ガ多イノデアリマスカラ、被告ガ裁判官ニ對シテ事實ヲ認ムルト云フコトハ、容易ニ有リ得ベキコトデナク、又有ツテモ、公判ニ於テハ全然認メナイコトニナリ、而シテ其認メナイ事實ガ遂ニ確定シテ、被告ガ無罪ト云フタト云フコトハ、能ク裁判官側ノ方カラハ、サウ云フコトヲヤウナ場合モ、從來屢々有ツタノデアリマスカラ、被告ガ裁判官ニ對シテ事實ヲ認ムルト云フコトニナシテ餘儀ナク其意思ニ反シテ公訴事實ヲ認メルヤウニナル場合モ多イノデアリマスルガ、此點ニ付テハ、單ニ被告ガ公デアリマスレバ否應言ハサズ、知ラズ識ラズノ内ニ被告ガ公訴事實ノ大體ヲ形式的ニモ表面的ニモ一應認メルト云フトヲ言ヘバ、ソレヲ以テ直ニ陪審ヲ許サヌト云フコトニナルノデアリマスカラ、或ハ全ク事實ノ真相ヲ確メテ、然ル後陪審ヲ許サヌヲ定メルノデアリマスカ、或ニサウ云フ事ト申立テモ、此陪審ニ付スルト云フ事ヲ請求スレバ、ソレヲ許シテ然ルベキモノト思量致シマスガ、其點ハ如何デアリマスカ

○馬場政府委員　只今林政府委員も答辯で十分トハ思ヒマスガ、是ハ法制審議會ニ於テモ色々議論ノ出夕點デアリマス、尙今少シ附加ヘテ理由ヲ申上ゲテ置キタイ、被告ガ自白ヲシタ場合ニ、陪審ニ付セナイト云フ事ニ付テハ、犯罪事實ノ有無ニ付テ争ガナイノデアルカラ付セナイ、斯ウ云フ意味デ英吉利アタリデハ陪審ヲ付セヌ事ニナッテ居ルカト思ヒマス、又他ノ理由テ説明ヲスル必要ガアルデハナイカト云フノハ無論豫審テ以テ被告ガ自白ヲシタコムコトハ、往々ニシテ公判ニナツテ實際聽シテ居ルノガアリマス、公判準備ナリ、或ハ公判ニ於テ自白シタ云フヤウナ場合ニ、却テ之ヲ陪審ニ付ズルト云フ事ノ爲ニ、寧ロ弊ガアル場合ガアリハシナイカ、即チ犯罪事實ヲ自白シテ居ルト云フコトデアレバ、殆ド満場一致有罪——犯罪事實アリ、斯ウ云フ事ニ決マタルト云ノガ殆ド確定的デアルト云フ事ノ爲ニ私ノ聞及シニ居ル所デハ、詰リ罪ヲ自分が背負フヤウナ者ガアツテ自白シタ云フヤウナ場合ニ、陪審員ハ一モニモナク之ガ確ニ有罪デアルト云フコトヲ評決スル、斯ウ云フ事ハ却テ宜クナイト思フ、伊太利アタリデハサウ云フ弊ガアルト云フコトモ聞イタ事ガアリマス、ソシナ理由カラ言ッテモ被告人ガ自白シタ場合ニハ、陪審ニ付セヌガ宜カラウ、サウシテソレハ公判準備カ公判廷ニ於テヤタダケデアル、無論其他ノ場合ヲ云フノデハナイ、此方ガ寧ロ陪審ノ評決ヲシテ誤リナカラシムルト云フ點カラ申シテ宜イ、サウ云フ考モアルノデスカラ、御参考ニ申上ゲテ置キマス

○作問委員　次ハ陪審ヲ請求スル者、即チ請求陪審ノ費用ノ負擔方デアリマス、是亦重大ナル問題デアラウト思ヒマス、陪審ヲ請求スル者ハ、其裁判ノ結果有罪トナッタトキニハ、全部又ハ一部ノ費用ヲ負擔スル事ニナッテ居ル、所ガ此費用等ニ關スル規定ハ、何レ勅令ヲ以テ詳細ニ御定メニナルコトデゴザイマセウケレドモ、私ハ此費用負擔ノ原則、其他ノ實際上ノ御方針ニ付テ今茲ニ確メテ置キタイノデアリマス、ソレハヨモヤ陪審請求者カラ費用ヲ要求セシムルト云フヤウナコトニハ相成リマスマイガ、サウ云フ御考ハ持ツテハオイデニナリマスマイカ、即チ陪審制度ヲ請求スル者ハ、豫メ費用ノ全部又ハ一部ヲ豫納シテ置ク、斯ウ云フヤウナ事ニ相成ルト云フ、貧乏人ハ幾ラ陪審ヲ請求シタクテモ、陪審ヲ請求ラナスコトハ出來ナインデアリマス、此ニ於テカ貧富ノ別ナク、金持デモ貧乏人デモ齊シク自由ニ陪審ヲ請求セシメ得ル爲ニ、其費用ハ前納シテモセヌデモ、陪審ハ付シテヤルト云フコトニ相成ラナケレバナルマイト思

フノデアリマス、若シ費用ヲ前納セヨト云フヤウナコトニ
ナリマスト、貧乏人ト云フモノハ、實際ニ於テ陪審ガ出來ナ
クナル結果ニ歸スルノデアリマスガ、倂テサウハシナイ、ソ
レハ後デ納付セシムルノダ、前以テ取ラナイノダト云フコ
トデアリマスト其事ハ思召ハ拘ニ有難イノデアリマスガ、
有罪ノ判決ヲ受ケマシタ後ニ、費用ヲ負擔セシムル、納付セ
シムルトニ云フ場合ニ、陪審ヲ請求シタ者ハ、大抵貧乏人デ
アフタ致シマシタナラバ、其後テ取ルト云フ時ニ如何相成
ルカ若シ陪審請求者ガ相當金持デアツカラ問題ハ起リマセ
ヌガ、刑事被告人ニナルヤウナ人ハ、先づ貧乏人ノ人が多イ
ノデアリマスカラ、其場合ニハ如何ナル方法ヲ以テ其貧乏
人デアリ且ツ有罪ノ判決ヲ受ケタ被告人カラ徵收ヲナサラ
ウトスルノデアリマスカ、或ハ今日ノ罰金ナルモノヲ納付
スル手續ニ依ラル、ノデアルカ、知レマセヌガ、ソレガ若シ
飽迄追徴ノ手續ヲ定メテ納付スルコトニナレバ、國庫ノ負
擔ニ屬スルコトニナル、倂テサウナッテモ、國庫ハ自分ノ支
出ニスルノデアリマスカ、此點ニ付テハドウ云フヤウナ御
方針ヲ以テ勅令ヲ御定メニ相成ルコトデアリマセウカ、之
ヲ伺ヒマス

○林政府委員 陪審ノ費用ニ付テハ、法文ニモ明ニシテ置
キマシタ如ク、訴訟費用ノ一部トスルト云フコトニナッテ居
リマス、ソレ故ニ其費用ヲ豫メ納メシムルト云フコトハ斷
ジテナイ筈デアリマス、判決ガ確定致シマシタ場合ニ、如何
ニ取立ツルカト云フコトハ、ソレハ矢張訴訟費用ト同ジ手
續ニ依ツテ取立ツル、斯ウ云フコトニナルカラ、罰金ノヤウ
ナ場合トハ全然違フ、納メヌカラ監獄ヘ入レルト云フヤウ
ナコトハ有り得ヤウガナイ、要スルニ金ガ無ケレバ國庫ガ
實際ニ於テ負擔スルヨリ仕方ガナイ斯ウ云フ結果ニナリマ
ス、ソレカラ尙ホ陪審費用デアリマスガ、是ハ報酬ヲ出ス譯
デモナイ、唯旅費日當宿泊料ヲ出スノデアルカラ、サウヒド
イ費額ニ上ル譯デアリマセヌ
○鶴澤委員長 今日ハ是デ止メマセウ、明日ハ午後一時カラ陪審法案ノ會ヲ開キマス、ソレカラ義ニ申シマシタ通り、
午前十時ヨリ刑事訴訟法ノ會ヲ開キマス、散會致シマス
午後五時二十五分散會